

13 88-4

年少労働業務資料第13集

昭和35年度

年少労働者福祉員講習会講義要旨

労働省婦人少年局 103p

は し べ き

この調査録は、昭和の年毎にわたる年少労働者福祉
調査会における調査の要旨を集録したものであります。
今後の年少労働者福祉調査の参考資料として利用さ
れることを希望します。

昭和の年毎

労働者婦人少年局

目 次

I 青少年の犯罪と社会生活について

1	青森	弘前大学助教授	竹内 昭 宗	-----	1
2	青森	東京海上大学助教授	渡 村 英 一	-----	6
3	新潟	新潟大学(旧田分校)教授	北 上 昌 八郎	-----	12
4	新潟	新潟大学教授	斎 藤 利 代	-----	21
5	愛知	名古屋大学経済学部部長	近 藤 新 規	-----	28
6	京都	京都府立大学教授	西 元 宗 雨	-----	34
7	山口	山口大学助教授	西 元 秀	-----	39
8	徳島	徳島大学教授	小 田 悠 大	-----	44
9	愛媛	愛媛県教育研究所長	村 上 芳 夫	-----	47
10	長崎	長崎大学経済学部助教授	松 岡 肇 郎	-----	54

II グループ活動の意義とそれについて

1	青森	弘前大学助教授	竹 内 昭 宗	-----	61
2	羽城	羽城俊台職業訓練所長	森 中 兼 光	-----	73
3	愛知	日本福祉大学教授	市 村 嘉太郎	-----	77
4	京都	京都YMCA委員長	村 井 美 智 男	-----	84
5	兵庫	神戸YMCA主事	今 井 鏡 雄	-----	88
6	広島	広島大学助教授	石 塚 秀	-----	94
7	愛媛	愛媛県教育委員会主事	近 藤 又三子	-----	96

I 青少年の将来とは後進性について

1 青 春 弘前大学助教授 竹 田 顯 邦 述

上述状況は致極は最上であるが、人間関係が悪く至極も少なく、現在のように争戦にはいつている。

年少男児が職場で、形式的に組織された天下り的人間関係ではなく真に職場の生活の中で人間関係をどのように持つかということ、大人以上に人格形成途上にある年少者にとって大切なことであり、それは能力、生産性の向上につながる。年少男児は人格形成の途上にあるが、人格はその人の素養にもよるが環境や対人関係は重要な影響を与える。

○ オレの人生の出发点

中学を卒業したばかりの可塑性のある青少年にとって、職場は人生のオレの出发点である。年少者が職場で、至人、大人、先輩、同僚と、どんな人間関係を持ち得るかということによつて、職場に対する態度が生まれてくる。人間関係が悪いと職場への態度を失い、職場から離れたという気持ちで仕事をすることは非常にまずいのである。プラスの誘惑性、マイナスの誘惑性という言葉で表わす代、家庭に帰つてからもマイナスの誘惑性をもたらしやすいような場分、手際はますます悪くなる。そんな状態では、大人との人間関係はますます悪くなるし、他の場所でもそれをプラスに何ける所がないとすれば、そこに非行少年が生まれてくる。

○ 年少者の取扱いはどうしたらよいか

青少年を救うことのむずかしさは、その母愛からいって、精神的不安定さに起因する。経済生活が安定してきているのに非行少年が增加している事実がある。人間は貧乏ことは苦んまりおぼえていないが、貧乏人という地位を大嫌は、自分もかつては、そういう時代を遊んできているのだから、奴等の所持は分ると思い込んでいたが、実際は苦しみ悲しみ苦ししみ、その人達の中にとはこんでいて、分らないものなりである。

○ 青年期の理解

人間を理解する一番困難な時期は青年期である。それはノミタの坪になつて、ようやくヨーロッパに青年心理学の研究がはじけられたことによつてもわかるが、青年期がいつはじまつて、いつにちかということを決めることが困難なことになり、加えて社会的な背景の変化で青年期が非常に長引いてきているのが現状である。明治時代より以前は、ノミタ位で母親になつた。即ち、思春期変化がおこる時といわれてきたが、社会背景が複雑になり、高度の文明を持つ社会では、その中で生きていくためにあらゆる場面でそれらの物事を受け取つて、それに対処していく知識を身につけなければならぬし、それには又、多くの時間を要する。身体的には大人でも、精神的、社会的には大人として、後天的に多くのものを受け止めてゆかなければならぬわけである。戦前は徴兵検査で大人としての区別をつけたが、現在は男まれた家庭で、自分の子供をいつ迄も子供のままとおきたがる傾向があり、早く大人に

であるという動機は少しもしていない。

○ 学校教育

学校教育にしても、現在の義務教育課程では、ほとんど実社会において役立つ総合的、社会的訓練をしていない。最近では思春期の開始が早く、身体的には早く大人になり、社会的に安定するまでには多くの時間を要する。そしてその時期には、非常に中途半端などいつかずの状態である。その不安をまぎらわすためにロカビリーなどに夢中になったりすることもあるわけである。青少年は、大人に自分を理解してもらいたい反面、大人は自分を理解してくれないと決めてかかっているし、大人は自分の都合の長い時に、彼等を大人にしたり、子供にしたりする事が多い。そんな事が、反抗心を持たせることにもなるのである。どちらかずの立場におくことは、米国の青少年の犯罪の例から見ると、白人、黒人、混血児とくらべると、混血児の犯罪が多いということも一つの青少年に与える不安がもたらしたものでなかろうか。

○ 青年期の心理特徴

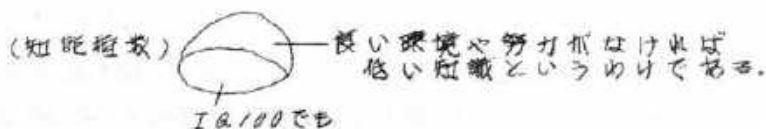
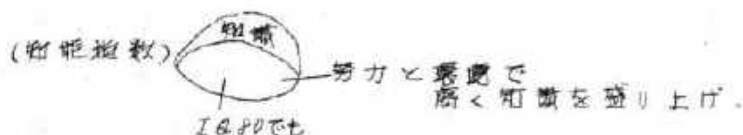
現行青年期は 12.3才～24才位までといわれているが、人柄の総仕上げをしなければならない時期であり、その時期をみぎわめての助言、指導がのぞましい。

1. 身体的な面からみると	呼吸器	消化器
12才～13才 …………… 前期	非常に不安	非常に旺盛
14才～17才 …………… 中期	,	
17才 以上 …………… 以後	発育の途上	

運動なども直後に行うときは、健康を損ねる。

2 知的な面からみると

10才～13才までが一番知的発達する時で、18才位でとまる。知能をわばんとすれば、みがき水で知識は高く盛り上げることが出来て、知識は60才位まで積み重ねることが出来るものである。



従って、小学校を卒業して職場に入ってくる年少者は丁度、知的発達の鈍くなる時期であり、それを土台にして知識をとり入れる段階にあるわけである。知能指数が少く低い低くてもその努力、環境の如何によって知識を多くする事が出来る。即ち、知能は鈍、知識是努力はどんどん発達のかていだといえちわけで、出来るだけ多量的な知識を手えろ。養育に注意を持たせることが大切な事である。知能指数は年令の低い時は、それだけ偏差も少いわけであるが、年令が増加するに従つて、その差は大きくなって来る。調査によると知的な面は

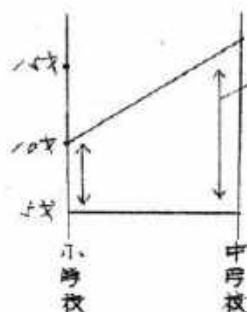
小学校卒業当時

6才位.....普通

9才位.....よい方

14文面……………悪い方

ということになって、そのひらきは少ないが、中学校の卒業時には、非常にひらきが大きくなっている。



個人差は非常に大きくなって
いるので、転場間、グループ
活動等でも一人一人に劣等感
を持たせることのないように
指導するのが大切である。

○ 読書傾向

小學校時代には少年少女小説や昌茂小説、孫崎小説等を好み、中學時代には、文學書特に恋愛を中心としたものを読むようになる。又、セックスを中心としたものに非常に興味をもつ時期でもある。転場に入ってから、又読書傾向が変わってくる。

○ 仲間との話合い

要求不満や人生とは、という問題を「不安定同毛」が話合いを求めようになる。学校に於ては、組織的には環境の中で悩みを話合う事も出来るが、転場では、その機会が少ない。しかし、転場における話合いの場はより必要である。色々と話合うことによって、親や大人にはめかつてもらえない事や、話せない問題を話し合い、考え合うことが出来る。そのような話合いを系談会といったり、愚つたりする人が居るが、それは大きな問題で、そのような話合いこそ、最も重要な

争なのである。高等学校時代の友人が、今の私の人格形成に役立っていることを考えてみると、うなずけることである。又、この頃に、その悩みを話し合える友は、2、3人に限られてくる。その親しい友達を集めて、フービ人のグループをつくるのである。グループでの話し合いは人格形成に大きな意義をもつ。中学時代には親しく悩みを打ち明けるような友を持つまでにいつていないが、卒業する頃には、そういう友達が必要になってくる。反抗する反面、理解されたいと思う心をなくみにとらえて、指導することが大切である。

福祉関係職員に於ける助言者として、指導者としての立場から強い目で、年少労働者を見守り、しかも、その目を年少者に戻すことができないようにしてやる事である。円満な人格をつくり、教養を高め、社会性を養い、職業段階の指導を行う事に努めてほしい。又、休み時間などに年少者が他人を罵詈雑言で自由に話し合っている事の中から、彼等の興味を知り、彼等に労働感をもたせることなく、のびのびと成長してゆくことに力をそえてほしい。

2 東京 東京都立大学教授 飯村 英一 氏

近年、青少年の問題が大きくクローズ・アップされてまいりました。このような時代に、青少年を如何に理解したらよいか、特に中小企業の経営に当たっておられる皆さんからみますと、雇っている青少年をどう取扱って行ったらよいか、ということになりますが、今日はこう

いつた最も基礎的な問題からお話してみたいと思います。

われわれ人間の社会は、家庭というものが最も中心となつて成り立っております。夫と妻と、そして子供があり、これが一般家庭というものでありますが、この夫婦と子供はお互いに結びついており、人間関係が出来あがっているわけです。

ところが、こういう関係の中で、家庭というものは、夫婦、親子が一体ではなければならない。これが原則であります。しかし、この関係をよくみますと、夫婦と親子は非常に連つたものです。夫婦というものは一生を生活を共にするものであり、又親子というものはそうはいかないのです。子供はやがて大人となり、夫婦となることを考えなければならぬのであります。そして、この大人になる過程を人間形成と申しますが、子供はこの家庭の中で、人間形成が行われているのであります。

先程、一寸人間関係ということを申し上げましたが、近頃、この人間関係という言葉がよく用いられています。人間というものはどういふもので出来ているかと申しますと、人間は自分という肉体が中心となり、そこへ色々な要素がとりまいているわけであり、そしてその外を囲んでいる複雑な要素は人間をとりまいている関係によつて形成されるのです。まず、夫婦というものが中心になり、子供が出来ますと、親子関係が作れます。次に、これを取りまいていては近所の人々との付き合いがあり、また職場での関係が出来さうであります。このようにさまざまな人間関係があつて、その中で日常

生活が行われているのですが、その他に、最近では新聞、ラジオ、テレビというような、所謂マスコミというものが発達していますので、先程申しました人間関係の他にこのマスコミによってもたされるもう一つの人間関係が出来ていることに注意しなければならないと思うのであります。つまり、このマス・コミによって人間形成が行われるわけであり、

人間が眠ったり、食べたりすることは動物的な肉体が行うわけでありすが、大人はこの肉体を包んであまり外に露わさないものです。お湯など浴した時にこれを表わす方もいさようであります。大体において、みんな肉体を包んでおります。例えて申しますと穴い戸のようなもので自分の肉体を包んでいるわけであり、人間形成が確立されているのが大人なのであります。いい暫えると、人格とでも申しましょうが、人間の格が、家庭とか近所の人、友人、職場といったような一つの統一された人間関係の中で安定しているわけであり、

ところが、子供の人格というものは動搖していて安定していません。人間の格を取りまく内が不安定なため、肉体の欲求、つまり動物的な面が外に顔を出すのです。

青少年の行爲は、親のことや、近所の人々のことを考えてやっているものではありません。近所とか職場における人間関係が非常に狭いため、外部の刺激に対して強く感じ、それに基づいて行爲とはって現われるのであります。素人者は、動物的な面ばかりしか持っていないから、

ちよつとさあつても泣いたり笑ったりします。外の刺激に対してすぐ反応を示すわけです。皆さん方のように人間形成が出来ている方々は、私がこうしてお話し申し上げても、それをすぐ行動に移す方はないと思います。そこが、大人と子供の違うところなのです。大人というのは、まゆの中にある蛹のようなもので、青を丘はまだ蚕の状態です。

さて、親がまゆを作ったと教しほしても、その子が大きくなって、親と同様なまゆを作るとは限りません。そこには親と違ったまゆが出来上ります。親は、自分と同じまゆを作ってくれたいと思つてもそうはいかないのであります。そのところを大人の心に十分御理解頂きたいと存じます。人間関係の備なつさり最も強い親子でさえ、このように親と子では違った人間形成をするのでありますから、まして他人の中に入つて行つた子供の人間形成はかなり違ったものが出来ると思います。

先程、私は家庭というものを考えて、これが中心になると申上げましたが、その中で夫婦は同じ人間形成を待たれても子供は他の社会に出て行きますので、違った人間形成が行われるわけがあります。このように考えてまいりますと、皆さん方のような中小企業の中で働く青少年の人間形成の過程にはいろいろな要素が入ってくるわけがあります。特に住込みの場合には転職の関係が日常生活の中に多く入つて来るので複雑な関係となっています。

家庭生活において、夫婦というものはまとまっている

ものですが、これは、夫婦の愛というものによって促されているからです。それ以外の親子というものは、血のつながりであると申しますが、しかし、この血のつながりというものは本能的なものであり、近代の社会関係においては、それは血のつながりというばかりでなく違ったものがあるわけであり、それは何であるかと申しますと、それは食事の場であるといいたいのです。同じものを食べるということは古い時代からのならぬであり、本能的なものでありますが、親子が一緒に食事をすることがどうかということ、その家庭が円満であるかどうかという物指になると思います。その家庭の食事の場で親と子がどういう状態でつながるかということが大事は何題であるわけですから。

人間の本能的な行爲である食事の場で親と子、また雇主と雇人という身分が判るということは、家庭や、職場の人間関係をうまくやっていく上に非常に障害となるのであります。つまり親と子という身分で食事をさせるということはつらいことです。ですから、食事の場で、こういう雇主とか雇人というような身分を出さねるのはいけないことです。

私はかつて、ドイツに行ったことがあります。その時下宿をしており、毎朝出る時、その家の人が「今日の夕食は家でするか、どうか」と必ず聞きます。家ですると答えて出て行くと、たまたま友人と会って外で食事をしている時もありました。その時ももちろん、その家ではちゃんと食事の用意がしてあり、私がもうすんで来たから

と断ると、大妻は顔をしめました。こういうことが三度あった時、その家の人は、「あなたは私の家が尻にいらはないわが、」と仰られました。私は突然に顔面を驚いて、「いや、そんなことはありませんよ。居心地がよいからこうして置いて置いているのです。」と答えますと、どうもそのようには見えなまいといわれました。不思議に思つてよく聞いてみると、「あなたは三度も私の作つた食事を食べなかつたではありませんか、外の食事と、家庭での食事を同じに考えては置ります。家庭の食事には愛着がこもっているのですよ。」といわれました。全くその通りだと思ひ敬服し、自分のしたことが悪かつたを悔いました。それから私は外で勝手に食事をして来ることはないように努めました。

これは私の体験したことであります。まあ、その位の燃料で家庭における食事というものは大切なものであると思つて置ければよろしいのではないでしようか。私のような耳聾になりますと、どうも考え方がいい加減になります。それではいけないのです。子供の躰分は時に食事の場が楽しいものでなければなりません。親子の間でさえこの身分を出されると嫌なものですから、雇主と雇人の場合はより一層気を配つてほしいと思ひます。動物的な単純な行爲である。この食事の場が人間関係をうまくやつて行く上に一番大切なところだということをしつかりお考え置きたいと思ひます。

次に私の申上げたいことは、この食事の時の話題が仕事以外のものでなければならぬということです。仕

年中はどんなに楽しいことを申されてもかまいませんが、戦争の時は人間として何等な立場におかれなければならないのでありますから、上下の差を眼鼻と語はやらないようにして頂きたいと思ひます。まあ、映画とか、スポーツといったような遊びの話がいいですね。これならばみんなうちとけてなごやかな雰囲気になるものです。

また、後集集つてゐる時などは、昼王の方はこのように語掛けてらいいと思ひます。「みなさんの中に今日生まれた人はいますか」とか「今月に生まれた人はいませんか」と等と聞くと、きつと誰か該当者がいると思ひます。その時はより人を指して「この意識を開くにあたり、今日生まれた人がいることは非常に幸福なことであります。では、今日は〇〇さんに可成りして頂いて会談をすすめていきたいと思います。」と、こうように語をすすめて行くとよいと思ひます。今日生まれたということは全く置断のめり合せです。これは自分も難れなやり方でみんな辰持よく開得のいくものと思ひます。皆さんも、何かり機会にこのような方法をやって御覧になるとよいのでせう。集つた人々の感情をときほぐしてくれす。生れたということ、食べるということ、ここに意義があるのです。喬木氏の心理をつかむのは、ここをつかむことが肝心なことだと思ひます。

人間関係のことについて一寸申し上げますと、一人を仕事をするときと二人をするときは、二人をする方が二倍の力があるかと申しますと必ずしもそうではありません。例えばここに女性と男性がいて、二人の間に人間関係

保たできるといふような力が注ぎます。二人の間にある拘束力ができて特別な力ができらるのです。これは千倍の力ができたと申します。ごんを歩くと千里の道も一里に短しいと申しますのもそのためだと思ひます。学生がデモに参加したり、集団で行動を起すとき千倍の力ができるわけでありす。

人間形成の節で申し上げました爪、青少年は不安定はためややもすると本能に走つて動物的な行動を起しがちになります。つまり動物的な内面に張りたれるものなのです。これは正常な状態のときあまり収めないものであります。心の平穏がくずれますと現われる現象です。時にはそのため暴力に訴へることもあります。それを減さぬようにするのが養育者の皆さんに考えて頂かなければならない問題であります。

御主人でもお通なごを召上つて帰られる時、一応お爪家カ門の前へ来るときちゃんと服を正して家へ入ります。これは、お酒を飲んだりすることはよくないと思つており、また、御主人が家にいる奥さんと通さないという気持ちの現われであると思ひます。そんな時、奥さんが強い抵抗を示されますとよし、それならもう一盞飲んで来てやれ」という気持ちになるものです。これが反動であります。まだ人間形成の途上にある青少年は、これが酒を飲まぬくても、拘束力が増えず動いていすので、余計不安定となるわけです。よく、子供の方がむづかしいと申されすが、これはほんとうにむづかしい向度だと思ひます。お酒を飲んだときは、あまり叱りすぎ

でもまずいし、叱らなくて、黙みすさたりしてもかま困るということがいえます。このように不安定な丘は、また反面、青少年の心が常に動揺しているから却って勇れ野いということがいえるでしょう。それをうまく利用すると抵い勇いものです。

庵主と、庵人という身分関係は既にできているのであり、これは否定できない事実であります。しかし、庵人がやがて庵主になるのだという希望を持たせ、庵主が庵人の気持ちの中に入っていくことが最も大切なことかと存じます。

ぬれぬれ日本人は風呂に入るのが好きな人種であります。着衣などが多い関係もありましょう。湯につかるということは。つまり、着物を脱いで裸になるわけですから、所謂裸になるというのは身分というものから離れて対等の関係が出来るので、とてもよいことだと思えます。つまり、みんな同じユニフォームを着ているということなのです。服装は身分を表わしているから、湯舟の中ではそれがなくなるわけです。平等の服を着ていると見ればいいのです。風呂の中で愉快になつて暴言などが出るのも実は心が開放感があるからかも知れません。ぬれぬれは常に対等な人間関係を望んでいることに外なりません。

それでは、この人間関係がうまくいかないのはどういうわけでしょう。いろいろな要素があると思います。人間関係がバラバラになっている場合は、その障害物を取り除く必要があります。その障害物というのは、壁をつく

ということです。嘘は家庭や職場の人間関係を破壊する
ものです。そこには社会的な人間形成があるからであ
ります。これは職場においてもまずいものです。そして
また悪い仲間を作るのでまことによくないことです。で
すから、一番よいのはこのような厄介な人間関係を
作るようにしなければならぬことだと思います。私は
本日申し上げたいのは、このようなことからあります。

これから青少年をお慮いになる場合、大学や高校を卒
業した人と違い、中学校の義務教育をたっただけの人
々をお慮いになることが多いと思いますが、その場合一つ
だけお願いしておきたいことがあります。

と申しますのは、私は毎年少若者で働く青少年の生活
文を募集していただき、それを拝見する機会を得て沢山
の原文をみております。これを拝見して本当に胸を打た
れることは、この義務教育をたえず職場に入られた人々
の生活情状が非常にかたよっているということです。初
めから仲が悪いのです。つまりこれらの青少年は、
普通ならみんな上級学校へ進学するのに自分たちは行け
ない。それが恨みと化していることです。恨みと申して
は一寸いい過ぎですがほんとにっらく思っているのです。
それは私たちには想像のできない現象です。これは悪い
ことだと思います。

ある女の子がバスの車等になつて、切符を切っている
時、同じ年令の女の子が高校へ通うためにバスに乗り合
いせました。この時、その車等をしている女の子は、何
ともいえない気持になり、のらくで腹をくいてばつて切

府を切っていたということです。少なくともそういう人たちはやはり自分たちは何かをやりかゝる一歩を遅れているのではないかという気持ち強いことは確かです。

しかし、そういう人たちも勉強できるという教会有り、また努力すれば自分たちも社会的にどういう地位も得られるのだというように、そういう励ましを与えてやらねばいいと思うのであります。こういうことがどれだけ必要はない青少年たちを伸ばしてやることかできるか、非常に大切なことだと思ひます。何かこういう人たちの生活の楽しみを増してやる必要もあると思ひます。

また、仕事の励みをつける意味でも、こういったことは何回繰返してもいいことだと思ひます。何かの機会に非常に成績のよいものは青年学校に入れやるとかして学校へ行けなかったことを何かの形で補つてやることかあればよいと思う次第であります。

私はこういう若い人たちに代つて皆さん方をお願いする次第であります。

3 新 潟 新潟大学(新潟分校)教授 池 上 善八郎氏
新潟青少年問題には今更に関心をあつた。

青少年、新潟青少年の区別は学問的には明確ではない。単に青年というものをはつきりしていない。心理学の中でも一致した意見はない。汽車や風呂銭の青年基準も便宜上である。はつきりしているのは少女表(20文木箱)、児童福祉表(1ポエ)のもので、私に心理学方面では学校教育からみるのと違い、人間の発達や生活のうちに

つていふもの、環境、家庭条件、その他により定められるので時代や社会が異なる取り扱いも違う。参考になればと思い、青年の特徴を知る意味において高校教育から見てわけると、

12.3才～14.5才	前期	} となる。
14.5才～17.5才	中期	
17.5才～22.5才	後期	

労働基準法、児童福祉法、少年法による対象者は青年中期である。

青年中期の一般的特徴（青少年の絶対的特徴では無く、比較することによってわかるのだが。）

週一才三ヶ月になると子供が一人歩き出来るようになる。それ以後を幼児というが「歩く」ということはその時期だけの特長というよりは徐々にで継続するものである。私たちが遇する人の中にも、青年中期的行動をなさる人もあるし、青年を神秘的で、大人とかけ離れたものだと考えてはいない。ハレモノにされるように、つぎ進んでしまわずに、きつかけは必ずあるものだと考えて人間以外の超能力にたよるべきではない。農村の青少年労働者の心理が勤労青少年のそれと似ているのではなかとと思う。

中期の青年心理

反抗期-----従来の权威に反抗する。この傾向は大人にもあるが人間の生長と発達の間程の中のものである。

又外的影響により変化するのが自我意識が醒める。

青年期を前青年期らしくすごせる人は高校→大学と進

んで行く人である。

義務教育に才使すぐ脳筋に曲げた人は自分を高く主張する。自信があるわけではなく、反発はするが、それに対する積極的意見はなく不安定である。

高校生は自分の中に自分をみつける自己反省や理想が生まれる。周りの付き合いはつくなり、論理的、体系的になり、理想と現実のかけはなれた理想を嫌い、否定し、前直を通そうとし、自分の意見を高く言う。

このような経験がないと中学時代のまゝ、停滞し、意見考査となり、その場の欲望により動く。これは自分の不安に対する一種の松弛である。

情緒面において感情が長く残る。おこられたり、ほめられたりしたことを長く覚えており、それを通大視して、それを契機に自分の考えを変えてしまう。疾風怒涛一連断から極端に走る。

このような感情は男性だけでなく、勤労青年も同じではないが、

主人の前では従順でその他では悪い、(女子に惹かれて云々と云うことになる。)

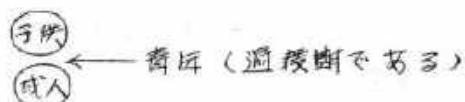
また青年の生活条件の中には健全なる異性関係も含まれる。社会性の発達、対人関係などに於て子供頃にはみられなかつた意識—今まで权威であつた者に対しての対人関係と異性関係が生まれる。

外国に例をとると、①お互に反はつする(男は男同志、女は女同志)→②異性に対する関心が出る→③性的なものへの嫌悪→④同性愛(娯、その他外的影響もある)

→ ④ 青丘は理想を求める（耳長着や身近な異性に）→
 ④ 理想が高くなり論理的にははつきりさせようとする→
 ② 異性愛く子羊の恋と云われるように理想の耳長着に求
 める。――例えば中学校の男の先生に女子生徒が好こ
 まれるとか、そのまた反対の場合等。→ ⑤ 裏面がみえ
 てくる。みにくいわけではいいのだが青丘はみにくいと
 感ずるのである。→ ⑥ 同丘麓の異性に対する強い動情
 青丘は同丘麓の異性に閉心のある頃でもある。→ ⑦ 一人
 を選ぶ――とわっている。

動情青丘（高校に入学し中学生徒から取柄に入った者）
 の問題、農家の二・三男はすぐ取柄に就くので愚村青丘の
 心算が参考になるのではないが、

都会の青丘は娯楽絶えず青丘の理想にあう非現実的世
 界）があるのですが、愚村青丘は都会青丘に比べ
 意識直さ×意識さげないが現実に向き合っており内的生活
 、精神生活に互しく青丘断にわたる男考断を促してい
 ん。



取柄においては「もう子供じゃないんだ」「まだまだ
 大人ではないんだ」と色々に取扱われ混血児的で自分の
 存在がわからない。

アメリカのハーゼの調べでは男竹着を満足させる条件
 として

① 取柄竹の条件

イ 正しい男竹をさせること。

ロ 成功、不成功に対して自分自身で評価させること。

ハ 交代制などを取り入れて单调さをなくすること。

ニ 協同作業をさせること。

ホ 適当な報酬を与えること。

ハ 公平に取り扱うこと。

ト 誠意をもって当たり信頼をおくこと。

② 職場外の条件

イ 家族への理解と協力により収入に託じた生活をする事。

ロ 娯楽と憩育を与えること。

ハ 健全なる異性関係

以上をあげており、アメリカのサマントの調べによる所
切有り要件は、①昇進の機会を与えること。②雇用を安
定させること。③自分の意見を尊重してほしいこと。④
仕事を覚えたい。⑤賃金をあげてほしいこと。等である。
(調査人数は百貨店の店員ノロ人、その他ノ。人であ
る。)

これには青年の自我意識のさうえによると思われるも
のもある。個人差が考慮されていないこともあるが、仕
事が楽だ。されいだと云うことは問題ではないようだ。
他ではこうしているからと、よその範を取り入れること
もよいが多少問題もある。

これらのことから青年の指導についてであるが、集團
的にやる方法もあるが、それは手段であつて、結局は個
人指導になるのではないだろうか。青年が何のために、

そういう意志は手をしているが、青年が賛成しになつて感がある。

指導するにはある程度の相求も必要である。彼と目的と方向を示し、自分が今何をやっているか、何を目的としているかと自分のやっていることを認識させる必要がある。賛成しにされることは青年にとって一番不幸である。まだ無意識的にやらせても長続きはしない。

人間には基本的な要求があるが、その要求が一番多いのが青年である。人間的、社会的に自分の存在を認めてもらいたいのである。

まとめ

- ① 我々自身の問題かもしれないのだから、青年を自分と別格に考えてビクビクすることをやめねばならない。
- ② 勤労青年は高校生、大生に対して劣等感をもっている
- ③ 一限の青年の心理を知り、それと比較して勤労青年の将来を知つてほしい。

勤労青少年の前途は一日のうちにその効果の表われるものではない。家庭生活、学校生活の整備によるものである。

皆さんがじっくり考え、磨き出し、人間と人間との関係、心と心のつながりを求めてほしい。

4 新 導 新潟大学教授 斎藤和代氏

最近の産業能率の向上でいわれて来ているのは、人間関係ということです。仕事をすることは人間です。仕事を

する人間の肉體をうまくしなければ能率是不够的。これは、アメリカなどでは決定的に言われている。

特に青年期の動揺し易いときでは、早期に手をうたなければ、あやまちを犯し易い。随處者も似いだに手をかまれることになりかねない。

青年期の問題については、青年期を3つに分けて考えてみよう。青年前期は中児児童、14、15、16、17才を中期、そのあと安定的なものを持つまでが後期である。今日の場の中では青年中期であるのでこれについて話をすすめていこう。

青年というのは子供から大人にかわる時期をいい、子供らしくて大人みtainなところがあつて、子供でも大人でもない、中間なりで動揺し易い。子供は子供め生活があり、大人は大人の生活がちゃんとあるが、青年期はある時は子供で、ある時は大人なので、この動揺し易いのは宿命である。

青年時代は又、成熟の時代です。成熟には身体的成熟、精神的成熟、社会的成熟があつて、身体的成熟は大体中学生の間までで終る。精神的成熟はまさに中期の18才頃までが盛んで、社会的成熟は青年期に入り、大人の世界に交つて盛んとなってくる。青年中期は精神的成熟があるが、これは自我の意識にめざめることだ。自我の意識にめざめるといふのは、1人の独立した考えを持ち、権利の主張、大人の社会の抑圧への反抗となつてあらわれる。

大人からみよと生動感溢りの命令で。何か言うといっ

ちよう前の理屈をいう。生活自体は、はつきりした自分の主張があるように自分が角したことを平氣でいう。

皆さんちの立場で使う者と使われる者の中で考えると不平不満をいつたり、何かいうと反抗的になる。又人に認められたいという意識から、非難におしやれになる。自分が人にどう見られているかに敏感である。不公平は取扱いに、又人からの言葉に反抗的である。どうも主人に対していうことを聞かない。ということがあり、親子の口げんかもこの頃に大変多い。口喧嘩は使用者と被使用者の立場では増しみが出て来る。

自我の感情の昂揚があるために自尊心が激く、反面劣等感も強い。「どうせ俺は」と絶望的になり、ゲルルとがある。

自尊心については花菱を叱る時、全員の前で叱るとヒッパツとくちが、機中では「何に言つてやんでエ」と返っていることがある。こういう場合にはノ人だけ時をじつくりくゆしく時間をかけて話して納得させるのがよい。つまり彼らの自尊心を傷つけないようにしなければならぬ。それではほめてばかりいけばよいかということでもない。青少年が大人の世界に接触するようになると大人の世界に対する関心も昂る。自我にはめざめているが何か不安が多く、ことにこの年令は色々と自分の一生のことを考えている。ところが中小企業に切く青少年にきいてみると「俺は食べばいい」と言い、一生の憂とおしというものが私共の若い頃に比べると少なくはつて来ている。

使用価値でも自分ら子弟の教育にも経済的な標準があるかということすらでもない。仮使えば、得業成績がどうかというのという能力のことは考えずに人並に振ってもらいたがっている。又自分の将来の生活設計に關する見通しは無いとやりきれないという感情を持ちあがた。

自我のたかまるにつれ、大人との格差が益々欲望が激しくなってくる。欲望の実現のためには果敢的に行動することがある。不良化とかいって「乱つぎ」という目で見られ易い。このことはどこの子もやっている。ただ、習慣化しているか、たまにやるかという差があるだけだ。

この期は青少年に、大人の価値するような型はない。青年で型にはまったものは、むしろ心疑しなければならぬと思う。近頃は彼らのエネルギーの消耗の場がない。青年はつぎらないものはやらす素直らしいものをやりたい。体内のエネルギーがこれと燃焼している。この前、全学年のストがあったが、それは一種のスポーツだと考えられる。学生の中にもそういつている者があつたのだから、使えども敢然に力み勇気があつてやつたものとはいえない。この時期での向應で、欲望を爆発的に遂行するのに媒介するのは「金」の問題だ。金をとるために変道にでる者志を考ふる。

戦後の青年のよくないところは目標はいいのだが、手段の所犯の足りないことで自ら努力するといふのが少なくなつた傾向にある。

しかし自分の生活や立場が暗いものであつても、希望や理想がないわけではない。現実においてこのために損

府と極みが出る。

自分の生活、勤務場所の関係で希望のかなえられないことがあり、気分がうつ病してくる。ここで青年の果が絶やせつ憂鬱が出る。

性の問題が次に出て来る。この期に入つて性的に悩まないことはない。これは青年が順調に育っている証拠である。日本は男子の性については平気で公開していた。古参が新入店員に自慢出来るのは酒やタバコなどのめまといふことだった。そして今ではこの傾向はマス・コミの影響もあってますます強くなつて来ている。こういうことから性に対する問題は指導しなければいけない。

今の世の中は、刺激の強い、移り変りのはげしい社会なりだ。最近、青少年犯罪者が多いのは、農村出身者だ。これは何故かという、近代化されていない農村から大都市へ出ると、激しい生存競争についていけないで、つまづいてしまう。

こういう問題を起こさないためには職場の指導、やり方に早くなじませることだ。

現代の青年階級は、功利的、打算的である。彼らは愚義などということはない。だから私共は近頃のヤツはダメツキなアと思う。近頃は全く打算的で、フロバン勉強がはげしい。だから私共の考える大和魂を青年に要求するのは無理だ、これは今の時代と青年の時代だと思ふ。

彼等は生活の体系にたつて理論をもっていない。何か不安だ。職場では先輩や主人と関係が密でいゝ一番肉親系

いいのは先輩、同僚でこの両方から影響を受ける。ここでいい人にめぐりあえばいいのだが、すいず影響を受けるからいい先輩がいますといひ。

自分だけ不安なだけに自分のすることなすこと理屈をつける。後で理屈をつけて合理化してしまふ。最もらしい理屈をつけておし通す。大人の社会を青井がみると案外ダラシないとみる。社会もダラシないんだから、それじゃ俺もやっぱり、さちんとやることはないという。この理屈をいちいちとりあげていると時間がなくなるのでいいぬないが、この理屈は言えないとたまって内攻する。世の中や自分の執断に批判の目を向ける。こういう青井に対してどういう指導をするかというとき最小限食えたら次に何を求めるか、これは精神的安定だと尋う。

信託人同僚係の中でノッの安定感を与えられたい。だからこれをみたしてやることだ。人に支持され、信頼されたい。こうしないと非行に走る、遊びをするにも愛荷が欲しいからやることがある。安定感を求めるのがオノである。

そこで、人生経験について御主人なりの話をしてやつたり、執断でどういふようにしたらいいかということなどを着段の話の中にはさむとよい。

青少年は役ね系の中に入ると信頼出来る人に話をしたりする。ところが親父というりはどうも打ちとけない。そこで母親にうちあけると母親はしどころもどろでどうすることもできない。だから青少年は家庭に於いてはほつぽり放されていふ。ここでどうにか話の出来る人間を依

ることが大切となる。男の運中は飲み家で家庭や仕事時
あらゆる節を削ぎながら、日本人にノイローゼの多いのは
こりためだといわれている。そこで吾さんが青少年を相
手にこういう人間関係を作るのはむしろいいでしょうが、
若い運中と交わって話の出来る雰囲気を作るのがオノ
と思う。主人が孫目ならば母ちゃんに話していく。青少
年が本当に相談の出来る人がいたら問題は少ないと思う。
これには先輩の好意が関係だ。「オヤジは何でもいいえと
いつているそうだが、ウチのオヤジにいつてみる。あと
でセラベツとくるから」なんていう先輩がいるとうまく
ない。先輩を指導することがむしろ先である。毎日の仕
事を進めて理解するのは先輩だから、たよりになれる。
指導の出来る先輩にすることが大切である。青年の生活
の中で、今の生活条件などは必ずしも満足出来るもの
ではない。何か不満が出る。こういう時は監督君も腹を
割って話し合いをする。こういうわけだから一箇にレッ
かりやろうということにするのが必要と思う。

又、毎日の生活や生活の中で仕事に苦しければ苦しい
後援者が昇る。よって仕事以外の環境をほぐしてやら
なければいけない。仕事の中で考えれば余暇をどうい
うに過ごすかということになる。時間の使いかた、遊びか
た、趣味の持ちかたなどを若い人に指導した方がいい。指導し
教えるわけにはならないと考えていいのではないが、

現場に入つてノリ回るのは新しい環境で生活の仕方が
めからないということだ。私達も旅行した時など不案内
でめからないと同じことだ。ここで環境が定まるのでくり

返し、くり返し仕事の内容などを教えること。

教えるは親戚の方がいい。一つの道義の伝達法、商品のとどけ方、しぼり方にしても具体的なやり方をうつらないと通っても訓練することだ。

個々の取組においても近頃ではオリエンテーションの時間を設けて訓練している。それから子休産にも週休制によって余裕が出来る、本人たちが向上するため養育の投資をどうにかうけもちが代向題となる。

青年は自分一人が好きなのをしたいという心理がある。一人ぼっちでいてみたい。人に何もいれず思いどおりのことをしてみたいという増徴があるので、青年講座等一つのものを付けていくにも相当の期間が必要となる。

だから皆と一緒に行けるような後押しが大切で、何といっても中小企業に勤める年少者は経営者を頼りにしている。経営者の理解が大切になる。いくら青年が希望しようと思えないことは出来ない。大事なことは人間の自覚性というものが、伸ばされ育てられていくように人間関係を休めていくのが大切なことだ。

自分の親に言えないことが、おじさんや先生に言えるということがある。一番いいのは店の主人に何でも言えるようになることだから、人間関係を重要に考えることが、いい青年が出来、仕事もいい仕事出来るようになり、地域からも喜ばれるのではいかと思う。

5 要 則 名古屋大学教育学部長 近 藤 貞 次 出
① 福祉員活動の対象になる年少男女若者は心理學上では、

青年前期に属するわけであるが、青年前期とは女子ではノ・ノ・ヌ
ヌよりノ・フ・ヌ前後まで男子ではノ・ヌ・コ・ヌよりノ・ノ・キ前後
までの時期をいう。

②

1) 身体的特徴

いわゆる発育盛期といわれる時代であるが、発達
するのは、主として筋肉であつて、神経とか、骨の
発達がそれに伴わないで、不恰好の時代とも呼ばれ
て居る自身、体つきのごちひなさを意識する。女子に
あつては、月経が始まり、男子にあつては声変わり、
また男女ともに、ニキビ、身体各所に発毛を見る事
時の身体の変化が盛り、それに対して敏感になり、
また、なやみをもつもので、一歩に於て性的衝動
も表はる様になるので、社会生活にとけこめない。

2) 心理的特徴

青年前期の心理的特徴として、次の点があげられ
る。

A 反抗的である事

一人前の人間として独立できる様な状態が出来、
独立の可能性について半ば自信が出来たにも拘ら
ず、成人達からは一人前の人間である事を認めて
貰えないという不満からして反抗的態度をもつ様
になる。

B 精神的不安定

人間は何らかの異因に憑する事によって感情の
不安定を得るものであるが、青年前期の特征とし

て、社会的前衛集団をもたぬ事よりくる不安がつきまとう。即ち、彼等は、もはや子供の集団には入ろうとはしないし、一方成人集団には認めてもらえない。

この点からして、取柄に於ては、こうした西少年達のもつ不安感を理解して、温かく受け入れ、販路集団の一員として包容してやる心づかいが望ましい。

C 感覚的に鋭敏である事

1) 西少前達より、感覚の鋭敏性がはじまる。

2) その結果、好き嫌いの感情が強く物事について、批評を好み、まに批評である。

D 以上あげた反抗、不安、敏感ということは、更に彼等のもつ要求不満、なやみの原因としても作用する。

自分の感情を理解してくれる様な仲間を求めるが、遇う様にならない事よりして孤独感におそわれる。

一方、自分の不完全さを補ってくれる様な安全な人間を求める気持ちから「英雄崇拜」がおこる。さて今まで自分が一段と高いところにあると見ていた。親、教師其の他周囲の成人達の不完全世を見出して、不満を覚えたり失望したりするが、その不完全であると思う人間が威張ったり自分と叱責したりする事に対し、怒りを感じる。

この点よりして、成人達（使用若達）が、その

权威を守るにつけても青年達に対する理解、配慮、道かみが変えられる。

E 青年の行動標準一途で行動し易い。

彼等の行動には、大抵の場合、自分達だけの標準で物事をはかるだけで、社会一般の標準というものを含めに入れないところにある。

F 社会的思想の影響を受け易い。

現代の新しい教育で育てられた、青年達の思想傾向と成人たち（特に40才以上の人間）のそれとの違いにより、摩擦が生ずる。

現代の青少年達が、個人の専断と公衆の福祉の調和という事を考えているのに対し、成人達は社会愛憎、成人愛憎を口にする。前者が民主主義を信奉するのに対し、後者は専制的であるとする。また青少年達が、話し合いでゆこうというのに対し、成人達は命令的でありたがる。

③ 青少年の生活指導

1) 採用初期の算ざき

A なるべく早く職場の一員にしてやる。

換言すれば、職場の成員意識をもちさせる。職場の行動、基準、目標を自分のものとして考える様に指導する。その具体的な方法として、次のものが考えられる。

1 一定の場所を与える。——これは心理的のみならず、物的即ち実際に職場に於ける場所もレ

くは、持場を与えることを意味し、たとえば
（上衣、手拭巾をかけるための）釘ノ布でも
よいのである。

Ⅱ 一定の勤務を与える。

Ⅲ 精神的な防壁つきをつくる様にする。

2) 監督者について

旧来の監督者の概念は現代に通用しない。

旧い意味での監督者の任務は労働者の愚慢または
孝の正確に遂行される事監督するものとされた。新
しい理念では、その目的とするところは、部下の勝
力を得て、生産をあげることにあり、欠陥、ミスを
省けるという事を目的とはしない。部下を従属人と
いう対立感情をみるか、或いは、自分の仕事り補助
者とみるかという点で、根本的な違いがある。

3) 仕事を教えるについての注意

オノに仕事を教えるときの精神的な防壁つきが大
切。

従来は「みて覚えろ」「さいて覚えろ」であつた
が、現代にはそれは通用しない。それで

A) 先ず仕事のやり方を説明する。

B) 次にその仕事を実演してみせる。

C) 次に同じ事をやらせてみせる。

D) 耳合の悪い点、うまくゆかない点を話し合う。

E) 話し合う機会をもうける、即ちお互いの意志の

陳述の保てる様に工夫する。これは必ずしも多
くの時間をかけなくてもよい。ほんの少しの時間

かいでよいものである。たとえば廊下の途中で会った時とか、仕事場を通りかかった時とかに「今日は如何だ?」とか「このごろはどういう風だ?」位の事で事足りる。

その講義よりは面長を

一対的に意見を押しつけるのではなく、相手の意見をきき、手帳をただし、理解する様に努めたものである。

4) 近少所竹若の教育の抜本と訓練について

公衆職業訓練、事業内職業訓練、新卒指導、通能教育、定時制新卒当

5) 余暇善用の指導

※ 余暇善用をみだすための条件

A 外面的条件

① 計画性をもたす事——予め一定の余暇時間のあまる事を知らせておくこと。たとえば寺期しない家ではどう雇用をいいつけないこと。

② リーダーに適當な人を選ぶこと。

B 内面的条件——職場の環境を教養あるものにする事。たとえば 余暇の使い方を考えさせる様に指導する。座談会等を用いて、情報の交換、意見の交換等をする。

6) 職場の能率と人間関係

アメリカ・ウエスメン・エレクトリック社のオースン工場に於ける作業能率についての実験、研究の結果、作業能率を上げるには、賃金を引き上げ、

作業方法の改善等にもまして、人間関係の理想的状態を保つのが最上であるという事が発見された。

その他 ① 各人に責任感をもたせ、責任を与える事 ② 専制の人事管理よりも民主的人事管理を ③ 火のような点について労働者自身で話し合いさせる — 火のような点について労働者自身で話し合いさせる。 — イ) 作業方法の改善 ハ) 生産目標の設定 ハ) 事故の防止 ニ) 箇物の配分 オ) その他
2) 年少労働者に就くべきは問題とどのように処置

A) 希望、理想と現実の開きよりして、幻滅感におそれさせる。

B) 友達、その他近親者との別離と仲間を求め得ない事からおこる孤独感。

C) 青年の脆弱性、敏感性よりして意見を述べ易い。

D) 親、先生等のいわゆるオーソリティーの束縛からの解放感からして意見に語り易い。

E) 先輩とか上長との刺激をなめち事が多い。

※ その処置としては要するに、年少労働者との精神的接近をよく保つように努めることである。

の青少年の特徴について

- (1) 子供でもなく大人でもない中間人的性格を持ち、精神的肉体的にも不安定な時代である。
- (2) 自我にあざわる

大人がらみれば反抗とみえるこじも人間としての自覚の表われである場合が多い。

人の云いなり放散になるまいとする自立精神の表われでもある。

たとえ反抗であっても正しい自覚しなると導びいて行くべきである。

- (3) 世にあざわる
- (4) 夢を持つ

理想主義的な時代であり希望を持つと共に世の中の被らしさが非常に目につき義憤を感じる慣でもある。

・勤労青少年の特徴

青少年の特徴のうち (4) のないのがこゝから勤労青少年の特徴である。

- ・何らかの事情による進学断念
- ・希望した力でもない無味乾燥な仕事
- ・労力による疲勞

等これらの生活条件の中で将来に対する期待や希望が失われていく。このことから彼等は現実的な物の考え方をする。

仕事に追われて考える暇がないことから生まれるもの

は安易な手段に得られるものを求めてゆく。

趣味、教養、娯楽としては才ノに映画

読書は単純平坦な娯楽雑誌、平仄、明星に限定されやすい。

スポーツは次の次となる。それは低い労働条件のもとで働く場合の多い青少年の疲勞度が影響すると思われる。

内面的生活は食田になりがちである。身心共に正常な成長をはかるためには適度の余裕のある生活の場を持たなければどうしても精神生活はなだりたされやすい。

。勤勞青少年の要求

(1) 親切にしてほしい

人の親切にされると涙が出るほどうれしいと彼らは云う。

(2) 馬鹿にしないでほしい

人前の人面として認め、取り扱ってほしい。

最近の学校教育で民主主義の精神を相当深く勉強して居りながら、彼等の人格を尊重する態度を取ることが肝要である。

呼び名ひとつにしても姓を呼ぶが君をつけるべきを呼び捨ては人格尊重の意味からみて問題であるばかりか「お前」よばかりは青少年にとって甚だ心外なのである。

(3) 公平を望む

人間関係を良くするという事は嫉妬心を理解する

手である。

決して特別にノ人を皆の前で叱つてはいけないし、はめてもいけないほどの叱づかいが必要である。

(4) 劣等感を持っている

進学した同級生に会つと卑下してかくれる等

の傾向者にお願ひしたい事

(1) 採用初期の善き方

・ 2・3ヶ月目に出席するものが多い。

この時期には友達との通信交換の機会が生じる時でもあり、自分の労働条件と比較する。

期待が裏切られた、友達がなくて淋しい等動搖しやすい状態にある危険である。

と此で学校、家庭との連絡を充分にとり又年少者には家庭へ傾りをする事を奨励してほしい。

・ 金の使い方、時間の使い方を教える事が大切である。

年少者には読書欲がある。高級な本でないかも知れないが最初はその本をみとめて、徐々に読書の習慣がつけば興味を程度の高い方へむけてゆく事に指導してゆく。

(2) 教育機会と訓練

年少者は勉強したいという意欲がある。

一方使用者としては定時制高校を出てどうなるかという問題(今の立場を足場として他へ移るのではないかという懸念)や定時制の始業時間が迫るとソワソワレだして落ち着かないで困るという事でむづかし

い問題だと考える。

懇 談

廣田 (1) 片親の子供の教育の問題について

○ 解答 欠損家庭の子供を採用しない方がよいという結論が出ると困るが、統計上の事実をみると、そうした家庭の子供には不利である。然し所親が病んでいる非行少年もかなり居る。

戦後の未亡人問題は戦前のそれよりむしろがしい。

性を刺激するマスコミや読者の機会も多い。

未亡人に男性関係があると子供の教育がむづかしくなるといふところに問題がある。

(2) 社会変化や戦後教育によって育っている青少年に対しては自分達の若い時に比べて何を基準として、これらの青少年の気持になればよいのかその線というものがあれば聞きたい。

○ 解答 戦後の子供は民主主義を風潮としてよりも雰囲気を受けしっている。

自由に重さをおく——個人の尊重（アメリカンデモクラシー）を考えている青少年に頭からのおしつけの指導はよくない。

相手を敬慕しようと思ふ態度は効果がない。

戦前の青少年の人生観は人の為社会の為、国の為生きるというものが多かったのに比べ、戦後では現在を呑気に楽しく暮したいという風に現実主義的になって来ている。

(2) 住込の年少者(サ子)が菊次が居いという事から非常にひがんで居る

「他の兄弟は皆上級学校へ行って居るのに自分だけは何をしても駄目である」又「死にたい」という事をよく言うので指導するのに困って居る。

里子に出されて居た事もあるらしい。

・解答　　今を平穏によく過いてやる態度が大切である。

長所をほめて認めることである。

どんなに公平に振って居るつもりでも収めはるがみやすい立場にあり　里子になれば尚の事である。

7. 山口　山口大享郎教授　吉　元　勇

人間の発達は一連続的であるが、その過程には段階がある。普通6才までは乳幼児期、7才まで主眼童期、8才まで主青年期、それ以後は大人と考えられている。青年期は前中後期に分けられ、年少労働者とい

られるノミオからノミオまでは中期にあたり、青年のもっとも青年らしい時期というてもよい。

ルソーは「人間は一生涯に二度生れる。一度は母体からの誕生——生理的誕生であり、二度目は青年期における精神的誕生である。青年はいろいろ悩み、苦しみを経験し、これに打ち克って人間として成長する。どう打ち克っていくかによって人間が決まるといってよい、それには何らかの助言を必要とする」と云つて、人生において青年期の一番大切なことを述べている。しかし学校や家庭とちがって年少劣幼者といわれる青年のゆく要路は、教育を目的とするわけではないから青年の精神的誕生がうまく行くかどうかおぼかしい。だからこそ適切な指導と助言を必要とするといつてよい。年少劣幼者に対して適切な指導が正しく行われるためには青少年の特性をしっかりとつかんでおかなければならないであろう。

青少年の特性

青年の心理状態は不安定である。青年は大人と子供の間人——どちらにとどまっていけなからないため、いつも動揺している。身体的には青年期の発達は一急激であり、特に性的成熟により、身体は大人、精神は子供という身体と精神とにギャップがあり、このため精神的にもいろいろの特性がある。

1. 知的面

個人差が激しく、中学校卒業時の精神年令は約

ノロカ耳の開きがある、だから耳の汚物者といつても一概に扱えない。

知的特徴としては確屈を好むようになり、权威に反抗し、合理的に説明すれば従うが、そうでなければ反抗する。一般に批判的であるが、十分な知識をもつて批判したり反抗する場合もあるので、指導する必要がある。

2. 感情面

非常に敏感で喜怒哀楽の情緒が激しく極端に走りやすい。

3. 社会性

人と調和するために自分の立場をどれだけ知り、人の立場をどれだけ認めるかが社会性である。

青年期は自我が表面に出るため、自我意識が強くなり、優越感となり、反対に劣等感となり、それが交互におこり両方を一人が持っているために不安定である。

生活指導（指導法）

人間の行動は要求によっておこる。要求はいろいろあるが基本的要求としては、身体的要求と社会的要求がある。

青少年の行動を考えると、特に社会的要求について理解しておく必要がある。

社会的要求

1. 愛着の要求 — 愛されたい愛されたいという要求、やさしい言葉一つでもこ

の要求は充たされる。

2. 所属の要求 — 何かの集団に属したいという要求。年少者は学校と職場との中間人であり所属の要求が充たされないため緊張し疲れやすい。

3. 成就の要求 — 好奇心新しいことを知ったり學んだりしたい要求。年少労働者もできるだけ定簡制通信教育を受けさせてやれば要求が充たされるし、又、進歩できないための劣等感をなくすることが出来よう。

4. 承認の要求 — 人に自己の存在を認められたいという要求。叱つて注意するより叱られる方が効果がある。

5. 独立の要求 — 自主性を認めてほしいという要求。年少労働者の場合この要求は自分の自由になる時間を与えれば充たされる。

人間が行動をおこす要求としては主なものが以上のようであるが、これらの要求が必ずしも実現できるとは限らない。要求が充たされないとき、緊張状態となり精神の均衡が失われるためそれ正元に戻すための緊張解消のための行動がとられる。

1. 攻撃 — 要求を満足させてくれない対象に攻撃を加える。

2. 逃避 — 要求の実現を阻むその場からの逃避
極端な場合には自殺

3. 抑圧 — 要求不満の緊張を抑えてしまうから
緊張状態は解消されずにこれがつや
るとノイローゼになったり、内臓行
動を起しやすい。

以上のように青年はいろいろの要求をもち、その要求実現のために行動しているが、この要求が果たされる場合はむしろ少く何らかの要求不満をもっているであろうから、これを問題行動とか自殺、ノイローゼに追いやらないために、話し合い、不満を吐き出させる（カタルシス）ことによって青少年の健全な精神的成長を促すよう努力しなければならない。

また要求不満に耐えるだけの力、忍耐力を日頃から養っておくことも大切である。

質疑応答

質問 景由福祉夏（萩、田町西区商店会）

中学年の女の子の場合であるが（日頃から高校生の者に対する劣等感をもっており、また家庭的に恵まれないためか）どんな冗談を言っても笑わない。この場合どのように指導したらよいか。

答 吉元講師

もしその場合 一人で落語を聞いたりしている時

に笑うことがあつた。それは今まで人に自分を開放しない習慣ができていたため、人に対して、心理的に緊張するのであるから、同僚との関係うまく行くようにしてやったり、子供と接触させてやれば自然に直ってくるであろう。

しかし、全然感情を失ってしまつて喜怒哀楽も表現されないようであれば、それは精神分裂症的で直すのは非常に困難である。

8. 徳島 徳島大学教養 小田 信夫

馬鹿とはさうは使ひようによると言われるが、使ひようによってはどんなにでもなる。年少者を上手に使ひ、年少者の福祉を増進させるには、青少年のかんぴころを掴んでいれば効果が上る。どんないい方法でやっても、急所を掴んでいなければ無駄である。先ず、泣き所、かんぴころを掴んで、大人と違った青少年の時期を認めることが大切である。たとえば大狼を切る時には目丁を直角にあて、魚を切る時には斜めに、木を切る時にはすじ表をはずしたところへナタをあてる。というふうな、それぞあの特徴を掴む事が大切である。

まず、年少者はどういう特徴があるかを知ることである。

原始時代は子供も大人も老人もいるが青年はいない。青年は文明社会にのみあるものである。子供は親の保護を受けて生活し、大人は正当な労働によって自活す

る。原始社会では子供が一足とびに大人になり、バナナをとったり、魚をじって食膳し、女は月経を境に大人になり、男は声変わりや、ひげがはえることによつて大人になって自由に結婚するし、動物社会でも同じである。そこで原始社会や動物社会には青年期のなやみはない。ところが文明社会はそうはいかない。ノミ才位の子供から、ノの柯耳も修業して子供ではなれ、始めて大人となる。この子供でも大人でもない間を青年と呼んでいる。

子供の時代は誰にでもあり、子供の時には何をしても誰からも子供であることと認められているので何も言われぬが、青年になると、子供のような事をすれば子供みたいとか、又大人の真似をすると生意氣だと言われて、映画、バスは大人の料金をとられるし、子供の特権も、大人の特権もない。又大人の社会からものはなされ、非常に不安定になる。

ノミ才になれば生殖器は大人になる。お腹がすくしいらいらし、満腹時には尿意がやわらいでいるように、青年期は非常に性欲があり、強い力にそれを抑制する事はむづかしく、いつも不満がたまる。文明社会に於る青年期の問題は性欲にある。性欲を満足とせないうために色々な問題が生じ犯罪も起る。そこで何が注射のよつてそれを抑える方法があるのではと考えたが医者の話ではそれは身体のために悪い。それでは性的失業時代を解消するためにどうすればいいか。24.5才になつて大人になると、仕事と遊びをはっきりくき

りをつけて考える事ができるから仕事は仕事で熱中しても遊ぶ時は遊ぶ時ははっきりさせられる。青年期は性欲を満足させない限り、仕事も手につかなくなり、いらだたしい気持ちをどうすることもできない。これが青少年の特質である。それでは性的失業による不安は解決できるか。

心腹熱すれば心酔変る。エネルギーを隅の方へ集中させると下の方へエネルギーはまわらない。例えば野球選手は入団後1年間は、母、姉妹以外の女性には絶対面会させない。しかし選手は、身体の良いなりに、体力を消耗させるのでよい。入団前の人は精力のすべてを母の方へもってゆき、就活の人は就活試験を受ける。彼等は1人前になり度いというエネルギーを隅の方へもってゆくので辛抱できる。つまり1つの目標1つの理想をもっている人は盲死のものに迷わされない。青年をまちがいなく指導するには個々の青年の特質と能力に合った人生目標を立ててやる事である。

お腹が空いているのに御飯も食べないでなわとび遊びに熱中している子供達ももう少し、もう少しと高くとぶことに努力しているが、これと同じで努力すればどんなにしても目標に達する事ができるので、自分の力をたえず上にもなまけず努力すべきである。そしてそのために個々の青少年に目標をたてるよう指導すべきである。

ほとんどの青少年が大企業へ入りたがり、中小企業へ入りたがらないのは、大企業の終身性を考えて自ら

進んでゆくのと、自分で認めてもらいたいという社会的要求もあるので、少しでも名がとった事業場を望んでゆく。ところが、本当の将来の目標さえしっかきしていれば、目先の小さな争ひに苦にしないで中小企業へゆきものである。ある例を、別子建設に依っていた人が別子建設よりクワ田の給料を高いに求たが大きい会社で目上の者がうゝ人もクワ田の人もいるところより別子の者が将来性があると考えて応じなかった。そして後には重役になった人があつたように、知能の高い者は目先の見とおしがきき、知能の低い者は別子の見とおししかできない。又他人の事は良いことだけしか解らないし、自分の事は悪い事ばかりしかゆからない。そこで中小企業においては仕事よりも先ず、年少者に中小企業の将来性を詳しく話してやることが大切である。

9. 受 験 愛媛県教育研究所長 村上 若 夫

(1) 青少年期とその心理的特質

青少年期全体を通じて、特質が見られる。

まず反抗現象と云はれるものである。この反抗の裏には、逆戻りっぽくなる。即ち逆戻り現象である。又理想がはきりと現われ、悩みが深刻になり、孤独感を味わい、反面、劣等感が強くなり、恋愛、友情等の問題を悩むこととなる。それら一体として、青少年期は、内面的生活の時代と云える。これら精神生活が深くいとなまねることによって青少年はオニ

の誕生期を迎えるのであるが、これら悩み、憧れ、劣等感などを、うまく導くことによって、更に深い人間性をもった人間として形成されることになるのである。

(2) 青少年期の心理の発達とその取扱い方

反抗であるが、これは、家庭に於て、誤着である。監場^{（44）}に於ては、希ではないかと思はれる。監場ではコント・ロール^{（45）}しがちである、何故反抗がおこるかという、これを心理的に究明すると、決して、困った現象ではない。まず、その原因を理解しなければならぬ。社会心理学者の論説をみると、成人と子供の二つの円が交わる点に青少年期は属する、両辺人の心理がわかる、これが青少年期の特質で、これは男つたものにあつたくない、又女はや子供ではないと云う気持ち、これに対して子供扱いされる時におこるのが反抗なのである。だから上手な扱い方をすれば、本人は一人前になろうと云う努力をするのである。

反抗の心理を助けるのに次の様な4つ考えられる。
① もはや子供ではないという気持ちと、ノムオオからノクノオオまでに身体的にも急激に大人になるが、時にノム～ノムオオまでに3ヶ月の間が一年のうちにつく、そうすると、今まで親や兄弟に依存していた気持ちが自分一人でもやれると云う独立心にまで高まってくる。

② エネルギーがあふれることにより、独立心が高

あられ、反抗を伴うのである。

③ 肉体的にも、精神的にも、急激な発達に伴う不安定性である。

④ 性の覚せい。である。

これらの現象がおこることは、子供が順当に大人になっているということである。

勤労青年に於ては、このような現象は職場に於て、顕著にあらわれないことは、勤労が大きく精神にコントロールしているからである。反抗の心理の一つのあらわれ方が注意欠現象である。これを虚勢的反抗と云う。この現象が現われるとすべ、批難——攻撃するけれども、決して一概に悪いと断定できない。悪い反抗にとどめないために、大人がそれをいい方向に導いてやらなければならぬ。

次にあふれたエネルギーを青少年はどの様に使うか、これは余暇利用の問題につらなってきた。調査結果をみると（婦人少年局）休養、教養等におも、使うことに努力するが、実際には困難であるというのがクワガを占めている。スポーツに使うというのも多い。この場合に体を休めることが必要で更に体力を消耗させてはいけぬ。

仕事をした後どんなことに時間を使うかの調査の結果、1時間程運動するのが一番多いが、これにより職場での緊張をほぐす。又レクリエーションによって肉面的な緊張をほぐす。どんな映画をどの位、みるかと云う質問に対しては、勤労青少年は、月に

1回と云うのが50%、2～4回が、44.6%で、内容的には、時代劇、活劇のものが多く、

読書の内容では、小説が50.9%を占め、この場合、最近の趣向は青少年に悪い傾向を与えている。

不特定が目に見えてくると、不安定であればある程、安定性を求め、悪いものを求めようと努力する。この特徴が必要とするのは読書である。低級な書物であると青年期の特質である理想や夢が育て、ゆくのであるが、色々なものに撞かれれば、撞かれる程悩みが生まれてくるが、これを①読書は解決する。又中学の三年にもなると、人生論、即ち、肉面的な生活において、どう人生を生きるかとなることが重大な問題となる。人生問題につきあねると、まず読書、友人、指導者が必要に要求されて来るが、これが又青少年を正しい道に生かしてゆくこととなる。人生の生きかたを助けるのである。

次に②友人の問題であるが、殆どどの青少年はアンケートによると相談相手が欲しい。友人が欲しい、異性の友達が欲しい。即ち理解者が欲しいというてどを望んでいる。このことは、青少年と話し合ってやる人が必要であることを示す。又調査によると、その様な相談相手があるかの問に対して、あるというのは28.9%の若で、後の若はないと答えている。。これら大半の相談相手のいない若にはなってやる人が必要なのである。又どんな若が指導者になっているかとおるに、先輩が大半以上を占めている。

先輩達も若い青少年の一人として、それらを育ててゆくことが必要と考えられる。ノノヘノエ才位の友達の構成は力の構成であり、それ以上の耳令になると和の構成である。即ち共鳴によるところの集団の発生であるが、その場合に、その集団は、閉鎖集団になりがちである。若い者が不良化するということは、集団の影響が大半である。それ故、集団活動は明るいガラス張りのものにしなければならない。集団は親や先輩や友人の力よりも強いものであるから、集団が悪くなればなる程、秘密性が濃厚となり、仁春の精神が一方的に強くなる。このような集団ではなく、価値集団、即ち、個人が正しい方向に歩むだけの影響を与える集団でなければならない。

この価値集団にするためには、レクリエーション等と正しい人間の結びつきが必要となる。その集団の中では、表現することによって個人個人の色々な悩みが解決され緩和される、表現の欲求は非常に強くなる。指導者はまずこの點に、働き上手になること、又生活の苦勞をどんなに打ち明けられても、その秘密を守り、人にもらさないこと、これが良き相談相手になる指導者修行と思われる。このような青年の悩みが次第に分つてくると、共鳴が出来、共鳴することによって青少年はいくらでもついてくる、そうすれば、青年期の悲しい自殺とか、ニヒル、デカダンス等は少なくなるのではないかとおもう。

(3) 青少年期の生活指導

まず青少年期における余暇指導について前述した。
次に

・勤労指導について述べる。

労務観に対する考え方を幼く少年にしっかりと植えつけなければならない。

例えば、中学生に就職をおっせんしても給与の良い所を暫々と移り変わるのをよく聞くが、給与とそれよりも、その前に個性観、労務観を、しっかりと植えつけて、職業意識に目覚めさせるなければならない。労務によって個性がみがかれ、人間形成が行なわれるということをお教えるのである。

又戦後の子供に欠けているものは、貯蓄と全力を尽すという精神である。全力の力を尽すと精神が欠けていることは、生活態度をみるにノロの力をもっているものが、ノロもノロも力を尽して、生活しているかということ、もかくの力が出して生活していない、人間形成は全力を尽すことによって出来てくるのである。このことは、労務観の確立と結びつけて考える必要があると思う。

・労務指導の問題

労務基準法を守り、労務管理をよくすることによって、生産、販売の効果をあげることが出来るという調査結果が出ている。

これを見るに週休制をもたせた結果、好ましい現象になったというのが32% 反対にマイナス

ったというのが、5%であった。好ましい結果という内訳をみると、労働意欲が高まり能率が上がり、生産向上となったというのが、60%であった。又慰暢、従業員的生活態度、腹の向上、雰囲気、非営に良くなったとでている。このことは、精神衛生的に証明がつく、反対に好ましくない結果というのをみると、まず遊びによって、労働意欲が減少し、生産が減少し、金使いが荒くなったと出ている。又遊びでせがいて悪い仲間が出来た。この様な好ましくない結果が出たということは、遊び方の指導が出来ていない、集団指導が不完全であったからだと断定して悪いことはないと思う。

これら指導が行き届いた上で週休制等が実施されると、どんどん良い結果を生んでゆくのではないかと思う。何故ならば、労働の不安定性が高まってゆくと、精神的不安定性も高まってゆき、労働意欲は低くなると云える。精神衛生が悪いと必ず何かどこかに表われてくる。即ち投射されるのである。即ち適当に休日を取ることによって疲弊等を昇華してゆかなければならない。それは、レクリエーションによってであり、又休日によってであり、その責任者は指導者である店主、事業主なりである。

近代の仕事は、レクリエーションによって緊張と緩和をくりエイトするのがレクリエーションであり、それにより生活の楽しみが湧き、幸福感に

充ちた状態で生きてゆける。

程度の休みはどうしても必要なのがある。単に休みを長くするだけで、何だけの効果がある場合がある。

次に夢回京の問題が考えられるが、適性感、材料感によるものではなく、その夢回京によるものであると云はれる。つまりお互いに慰め合い、理解し合う明るい職場でなければならぬ。という職場においては、幸福であると感じ、適性感を持つのである。子供を扱う上に於て、精神衛生が重要となる。このことは、同行、承認、愛情が必要となってくるのである。

10. 長崎

長崎大学 教育学部
助教授

松岡重博

- ノ、現代企業体系の中で従業員の心理的管理の重要性
結に初く青少年の教育管理の特質とその重要性
- 。企業体系の中の管理方式

現代の生産が分化分業の型をとった大規模生産方式に変化するにしたがってその労働は専門化してきた。

又生産方式が変化すると同時に労働者と経営者が分化されてきた。その分化につれて労働者は労働について、職業についてその意義を見失ってしまった。

経営者は販路販売に重点をおき、その労働条件

を考えなくなった。

二つの向の溝をいかにうずめるかについて種々の人事管理の方法が考えられる。

その一 賞罰方式

経営者は労働者に対して、適当にきびしく、適当にあたふかくという方式で、

イ、経営者の勤にたよった非科学的なものである。

ロ、この方式は社会の進歩には、貢献しない。
ハ、合理性がない。

ニ、労働者の劣等意識が生産を低下させる。

その二 賃金方式（出来高上りという方式を、

英國で取られたもの）

イ、大規模生産になり分業になってくると何が基準になるかが不図になってくる。

ロ、競争形式の中では個人は利己的になり二重人格を作り見せかけの行動が多くなる。
ハ、働く者に対しては集団拒否の姿があらわれる。

ニ、生産管理の立場から無恥が多くなる。無耻のつま重いが神風タクシーのような例を作る。

ホ、物質絶対主義 — 貴族と奴隷という姿の社会が再来する。

現代青年の考え方は、いかにゆかずに、いかに衆に生活するかということがたもてがあ

る

大卒に入社出来たものは勝ったものとして、これでは自分だけは太夫業に人生が送れると安樂的になる。

阪についたものは、夢やぶれた後の劣等感がこゆいのである。

その三 科学方法

一 職務分析（職務が要求する性能の分析と自己は適性があるかどうかの自己分析）

集中度の特性性はどうかの分析で労務防衛、休憩時間等があみ出せる。

イ。作業場ごと、企業場ごとに労務の条件が合理的になる。

ロ。工員の訓練が科学的に研究されるにしたがって、早く熟練工が出来る。

ハ。科学的な管理方法は早く一人前の従業員を作り上げたが次の三つの欠点をあげることができる。

オノの欠点 客観的な要因は充分とり上げられた反面、主観的な要因が考えられなかった。モラール、労務意欲の問題がおとされていた。

オスの欠点 個人が集団を構成した場合は個人の性格と全々違った性格を表わすものである。その集団性について考慮されなかった。

オスの欠点 内部要素の研究がされなかつた。内部構造が考慮されなかつた。発達途上にある青少年であるから青少年のエネルギーを現代の企業体系の中で文化社会においていかに生かしていくか、いかに最大限に発揮されるかを考えられなければならない。

例 労働争議にしてみても世界各國のそれは、もう日本のそれからはすでに卒業しているのである。

2. 青少年の身心発達上の諸特質

1. 青年期の意義

1. 生物学的意義

種族保存の身体に変化する。身体各部が異質的な発達をする。性の保証のために感覚機関が発達する。

(一次性特徴は胎内で性が決定する)

二次性特徴は興奮性を示めす。感覚機関に新える技巧が発達する痛癢さ肌を技巧でないからそれが目立ちやすい。異性をもとめて集団行動する。

2. 心理的意義

身体的変化は精神的変化をきたす。自我意識が強力になってくる。

自分が一人前であるという意識の反面、自分などのような自分であるかとの不安になやまさ

にそれを知らうとする自分の内界に対しての反省がある。

自分正つと出すものにはどんなものにもとびつゝ進路がある。くががみ。友人。不良仲間。自分を知りたい。自分の姿を見たいとの欲望の中に将来の人間の素材がすべてこゝに存在している。

3. 青少年の低熟意識の特性とその処理

自分も理解してほしい。慕ひいてほしいとの思慕の情がその時代の特質である。

いかに理解し、慕き出すかが将来を決定する。

1. 退歩的な理解

。おまえという人 世は駄目だつまらない。

。たばこ、酒をのまなければ一人前ではないぞ

2. 向上的理解

。小舎制度（塾制度）

。小さな美点を引出して育てる。

イ。取組からはなれた個人的な立場では一対一の立場で結びつくことが大切である。

ロ。症状分析でなくて性格分析でなくてはならない。犯病的傾向があるかどうかの分析

ハ。指導するものは、自分自身の性格的かたまりを充分知る必要がある。自己の性格分析が出来ていないと相手の性格をゆがめて受ける。

ニ。指導者のゆがみを相手におさえつけるこ

とが一番いい。

ホ、相手がいいやすい状態を用意してやること
がオーである。相手は何が言いたいのか何が
ほしいのか早く知ることが必要である。

4. 職場における青少年の社会的な発達と人間関係
人間関係の問題では要求にあちている。

社会のくみ立てが論理的になっていくのに、青年
達は、自然発生的な社会性（家族関係）だけである。
それは空想に陥らされている。現実がどんなものを
を考えない、さびしい現実がひしひしとおしよせて夢
が破れていく。

人間関係を自分の夢のように空想のように相手に
要求する。どしてくっつかうったりする。その点を
よく知る必要がある。

その空想をみだりにふくらませ甘やかすことをせ
ず、いかにうまく現実に置きかえてやるかが大切で
ある。現実的な甘嚢を立て、段階を踏んでいくこと
の大切さを知らせる。

生活計画を確立させるように導く。

5. 職場における青少年の非行問題

集団の中の一員としての機能がオーである。人格的
な障害がいかんしてさせられるか参加の原理による。

目標決定の参加 → 決定にしたがって協力する。

その日の反省から明日の予定が立つ

討議方式

1. 許容環境

その集団の中で自分の意志が反映する環境、集団の中で個性がみとめられ個性がいかされていく。

コ。相互環境

ただ甘やかすことのこれに当る。

II グループ活動の意義とそのすすめ方について

1 青 森

弘前大学助教授 竹内 照 京

青少年の心理変化

中学に入る頃になると、身体的、精神的変更に気付きはじめ、今までは逆が友達として、気軽に話しかけていた男生徒と女生徒は、お互いを意識しはじめるようになる。又青年前期から、青年中期に入りかけるこの頃は、これまでよりおちついて、何にでも突っかかっていた状態から、自分を圧するものへの反抗に度々くる。そして悩みが多くなり、その悩みを誰かに理解してもらいたいと思う反面、他人は当てにならない。自分は一人なんだという思いに沈む。そんな時、悩みや苦しみと同じ不安定さを持つ仲間と話し合つて、お互いの経験や考えを述べあつて、それをやめられようとする。更にもつとよく話し合い、理解しあえる友を求めようになるが、信用しあえる人を見付けることはむづかしい事に関心く人は皆、不安定欲

- 1. 愛情
- 2. 承認…社会的に認められたい
- 3. 所属…仲間はずれになりたくない

の基本的欲求があるが、青少年はそれを大人以上に敏感に感じ、満たしたいと思うのである。このような時代に、本当の友達を持たない青少年は、どうなるだろう。環境的にめぐまれず、心理的な発達をまたげら

れた場合、そのとほましくない刺激を受けた場合は、不良化する危険性が多い。まともな友達からは仲間はずれにされ、相談相手もなく、ますます悪い仲間引き込まれていくことになる。

週休制によつて、暇が多くなつたのかいけいないのかという声も出てくるが、それは野放し勝ちになることが問題なのである。過渡期の不安はさけたいものである。そこにグループ活動の意義があり、

その果す役割は

1. 健全なグループは安定にみちびく大きな役割を果たす。
2. ゆかいた暇つぶし、これは一つのレクリエーションである。
3. 他人の中では（グループの中では）自分のしたい放題のことは出来ない。

仲間とのつきあひの中に大人の社会生活の中間に自分から入つて行くことが出来る。

その結果

- (1) おつらかに人の気持ちを理解することが出来る
- (2) 社会的エチケットを体得することが出来る
- (3) 他人を正確に把握する目覚めてくる
- (4) つげやをばではなく、自分のものとして、内容を深めることが出来る

グループ

信友くすべての事、秘密をも、打ち明け合う）
親友くほとんとすべての事について話し合う）

連中（一般的な話し合い）

こゝろが集まつてグループをつくる。それ故、グループ活動を指導する際、小さなグループを忘めてはならない。更に大切な事は、それらの小さいグループの持つ特質をまちまちであるということである。又、グループには、広い意味での連中と、特殊興味集団がある。後者は演劇、音楽、野球等のクラブ活動を中心としたものであり、それらはいずれも、余暇善用のために如何に活用するか、自分の問題を如何に考えていくか、ということに連なっている。したがつて、かたちよりも、一番大切なことは、一人一人がようこんで自分の問題として積極的に対処できるようにもつてゆくことである。

グループ活動をすすめる場合

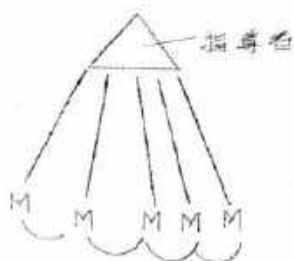
ハ、年少学村者の心理をつかむこと

グループでは何かをしようと思う時には、リーダーはグループのメンバーが関心をもっている点、その気持ちをつかむ事が大切である。上から与えられたものは体裁は良いが欠陥が多い。そのことからメンバーの間にいがみ合いが出て来て、自分達がそれに参加して、すすめているという意識がうすれてくることもある。

ある者は体力的であり、ある者は精神的であるからその一人一人が、安定態を得るようにしなければならぬ。

エ、縦のつながり、横のつながりを考えること。

レビンの実験によると



縦はかりでなく、横のつながり
かりを持つことが大切で縦のみで
なく、

1 指導者がいなくなると駄目
になる

2 メンバー同士のあつれきがある
横のつながりを強めると

1 なごやか

2 指導者がいなくなつてものがてゆく

3 個人差のあることを忘れないように。

メンバーの結がつきをよく知り、誰一人無視される
ことのないように気をつける事である。仲間はずれに
される事くらい、年少者の不安感を踏みにじる事はな
いからである。そのために、どんな人がどんな発言を
し、どのくらい発言したが、発言しないのはどんな人
かをメモしておくのも一つの方法である。又好ましく
ない興味本位の方に流されやすい若者を区別してうま
く指導しなければならぬ。

4 規律ある生活指導が大切である。

自主的に自分の内腹として取り上げるように指導す
る。

5 雇用主の理解

進んで年少者の内腹を考えるよう事業主の理解をわ
め、余暇善用、グループ活動のために、最低線の労務
条件の確保が必要である。

グループ活動をするために、異体給にはどうしたらよい
か。

(1) 施設に関しては差し当つて、栗、市の公民館等を大
いに利用し、そこを根拠として火の手を上げることが
大切である。

(2) 関係機関とよく連絡をとること。

(3) 読書、映画の場合、これらを通して批判力を養うこ
とが必要である。

(4) 橋のつながりはあまりなくしすぎることは困難で、
情報交換の場とするほうが望ましい。

(5) あんまり指導を加えると、はなれやすくなり、注意
深く遠くから見ていつでも指導の手がのばせる態勢
に指導者がいることが大切である。

以上、述べたように、青少年の特質を理解して頂き、

“初く年少者のグループ活動”等の資料を参考にして、
彼等のグループ活動をよりよく伸ばしてやることこそ
福祉員の任務ではないでしょうか。

2 茨 城 茨城総合職業訓練所長 村中兼松氏

A グループ活動の意義

ここでグループ活動というのは、教養、趣味の目上
あるいは社会奉仕などの共通の目的のために、青少年
によつて自発的に結成されているグループの活動であ
る。

グループ活動に期待される効果としては、つぎのよ
うなことからあげることができる。

1. 民主的暮回生活の基礎的な訓練が自然に行われ、民主的な社会のメンバーとして必要な社会的・公民的な精神や態度がのびされる。
2. 余暇の利用についてのよい趣味と習慣が培われる。
3. グループ活動の場は、個人の適応と発達のためにもよい機会を与える。例えば公共に対する責任、協力、責任感、奉仕による満足、創意に対する刺激、自信、安定感などはグループ活動を通じて得られることが多い。
4. 人間と人間との望ましい関係、それを妨げる条件そこから発生する問題などは口頭の説明によるのみでは、十分に理解されるものではない。それはグループ活動によって体験され、またその社会的な訓練がなされる。
5. 共通の問題を共に考え、解決する方法を学ぶ、また自分の持つ問題が自分ひとりだけではなく、自分と同年代にある者の共通の問題であることを知ること、精神的な健康のためにも重要なことである。特に話し合いをすることは、自己の立場を明らかにしたり、自己の見解を主張する勇氣や技術を学ぶ、また、自己の感情内にわだかまるものを発散したり、心配、悩みを解決することにもなる。
6. 青少年が相互に理解し合うことを助け、それによって自己をよりよく理解することを助ける。そこに正しい自己認識、独立心、自尊の態度などの発達がある。

期待される。

③ グループ活動の現状

① 県内における各地域のグループ活動の現状については、茨城婦人少年室で調査された「年少併動者のグループ活動状況(参考資料Ⅰ)」を参照していただきたい。

その構成をみると、小地域の青少年によつてグループが構成され、その中に年少労働者が参加している。その構成人員は全部で30名～60名程度になつている。

どのグループにも助言指導者が顧問のような名称でおかれている。その助言指導者は公民館や市役所の職員、中学、高校の先生、職場の先輩、大学生などである。

グループ活動の内容としては、スポーツ、ハイキング、フォークダンスなどのような体育的な活動やレコード、コンサート、コーラスなどの音楽的な活動が多く見うけられる。その他、青年学級、学級の集い、話し合いなどによつて教養の向上をけかり、施設訪問等の社会奉仕を行っている。

また、どのグループにも共通してみられることは機関紙(誌)の発行である。これは、情報交換とグループの結合を高めることを目標としているようにおもわれる。

会費は、月額30～50円程度が多く、全部が公民館の協力、または補助を受けて活動を行っている。

2. 茨城総合職業訓練所におけるグループ活動

当訓練所のグループ活動としては、ホーム・ルーム活動、自治会活動、クラブ活動などが行われている。ホーム・ルーム活動は各科ごとに結成されたグループ活動であり、自治会は全訓練生によつて組織されたグループ活動である。これらについては「茨城総合職業訓練所ホーム・ルーム会規約（教育資料ス）および「茨城総合職業訓練所訓練生自治会会則（教育資料3）」を参照していただきたい。

クラブ活動は同じような興味、要求、能力、適正などによつて分けられた小グループによる活動である。現在つくられているクラブの種類は、野球、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、水泳、音楽、英語、読書、珠算などである。

各クラブには、能力、興味、人格、経験などからみて適格な職員が顧問としておがいている。

C. グループ活動に対する指導者の理解と認識

グループ活動の指導にある者に対して特に要求されることは青少年の心理と集団心理に対する理解と認識である。

1. 青少年の心理

- (1) 青少年期における反抗
- (2) 青少年期の友情
- (3) 青少年期における感情生活
- (4) 青少年期におけるスポーツ

- (15) 青少年期における習俗
- (16) 青少年期における読書と人誌探究
- (17) 青少年期における性欲と恋愛
- (18) 青少年期における芸術的生活
- (19) 青少年期における職業

2. 集団心理

- (1) グループの構成
- (2) グループの機能
- (3) グループの行動
- (4) グループの発達
- (5) リーダーシップ

グループ活動の指導においては、特に次のようなことばらに考慮すべきである。

1. 青少年の自主性を尊重し、強制的な行方方は避け、
 るようにすること、指導者はグループの活動が健全に
 発展するように、よき助言者の立場に立つことが重
 要である。
2. 青少年が互に共感し、助け合い、しかもはつかり
 した目標に向かって自主的に活動できるように援助す
 ること。
3. グループ活動が多くのメンバーから密着したり、
 一部の役員だけのものではなく、すべてのメンバー
 が自己の属するグループの活動に対して責任ある行
 動をとるよう指導すること。
4. 必要以上にグループ活動に介入すること、干渉す
 ることかして、正常なグループ活動の進展を阻害し、

意識させる語氣を招くようなことはさけるよう配慮しなければならない。

5. グループ活動は青少年各自の自覚や欲求によつて開始され、行われるべきであるが、それには指導者の指導と援助が必要であることを忘れてはならない。

2. 具体的な援助の進め方

1. グループ活動の育成について、その現状または会則などについて必要な援助をすること。

2. グループ活動が正しい方向に発展するように明瞭で正しい目的をもつよう、必要によつては助言すること。

3. 初、青少年のグループ活動については、使用者の理解と認識をたかめるような対策を講ずること。

4. グループ活動の運営についても、必要によつてはつぎのような援助を行うこと。

(1) 適当な集会の場所の提供について援助すること。

(2) 適当な講師の斡旋について援助すること。

(3) レクリエーションなどの行事についても、できるだけの助言、援助を行うこと。

(4) 優良図書の利用について援助すること。

(5) 優良映画、音楽会などの紹介について廣瀬すること。

青少年労働者のデレープ活動状況

名 称	所 在 地	助言指導者	会 員 数	主たる活動内容	活動費用の出所
ヒタチگران ド コピール会	日立市所川 日立公民館内	(顧問) 日立公民館長 日立市社会教育 課長	63名 (年少学 生約20名 スア名 その他 と高年 上青年)	1. 会館会館の裏 2. 青年学 スアボ リク 3. エン フ 4. フ 5. コ 6. ホ 7. レ 8. ハ 9. 社 10. 他 会	1. 会費 2. 同 3. 公 4. 行 5. 講 6. 会
4 F 会 4 F 2 日 Friend Ship (友 Fight (友 Friedrich (友 Friedrich (友	日立市更方 丹生教一	(助言) 日立公民館長	約50名 (年少学 生約20名 スア名 その他 と高年 上青年)	1. ホ 2. コ 3. フ 4. 青 5. 会 6. ハ 7. 地	1. 会費 2. 同 3. 公 4. 行 5. 講 6. 会

田立グリーン センター	日立市 小野寺地方	(顧問) 日立電線工場 新大工部学生 有藤 健	計30名 { 年少科約10名 その他10名 以上青年 }	1 総し合い 2 レクリエーション 3 企業活動の奨励 4 ワークス 5 施設利用	1 会費 月額1人 2. 払込経は協 会 (上記と同じ)
結城市町会青年 学級	結城市町会 結城公民館内	結城公民館を主 結城中学併設 結城南ノ高校 有藤 健	62名 { 年少科約10名 その他10名 以上青年 }	1 レクリエーション 2 甲子園の奨励 3 季節の集い 4 秋の祭 5 クラブ活動 その他	1 払込経同 2 会費 月額1人 3 払込経は協 会 (上記と同じ)

(昭和35.5現在)

茨城総合職業訓練所ホームルーム会規約

第1章 総 則

第1条 本会は、茨城総合職業訓練所ホームルーム会と称す。

第2条 本会は、茨城総合職業訓練所の訓練生をもって組織する。

第3条 本会は、役員と訓練生及び訓練生相互の理解と融和を深め訓練生の個性をみ出さし技能訓練のみによつて果すことのできない生活との問題を理解せしめ公民としてあるべき姿が学はれる場所であることを目的とする。

第2章 役 員

第4条 本会には、左の役員を置く。

ルーム長 1人

副ルーム長 1人

ルーム会計 1人

委 員（規律、美観、文化、安全、保健、体育
図書）若干名

顧問（職員）1人

第5条 ルーム長は、ルームを代表し、ホームルーム会の議長を務めルーム内の議決事項及び自治会評議委員会からの指示事項をルーム委員に徹底執行させる。

2. 副ルーム長は、ルーム長を補佐し、ルーム長事故あるときは、その職務を代行する。

3. ルーム書記は、ルーム会の議事を記録しかつ連絡同知の任にあたる。

4. ルーム会計は、ルーム長の指揮を受けルーム人新入費とそれら以外の経費の整理にあたる。

5. 顧問は、各ホームルーム会ごとに担任監督が任にあたる。

6. 委員長は、ルーム長の指揮を受け、ルーム活動推進の任にあたる。

第三章 ホームルール会

第7条 ホームルール会は、ルーム委員の三分の二以上の出席をもつて成立し、議決は過半数の賛成をもつて決定する。ただし、賛否同数の場合は議長がこれを決定する。

第8条 ホームルール会は、週ノ回定期の如くほかルール長が必要と認めた場合これを開催する。

附 則

1. 役員の変更及び任期については茨城総合職業訓練所訓練生自治会会則第6章を適用する。

2. この会則は、昭和22年 月 日から適用する。

ホームルーム委員とその活動事項

規律委員

1. 服装、徽章、名札について

2. 外來者 職員及び訓練生間の礼儀について

3. 遅刻、早退者の調査について

保健委員

1. 訓練生の健康について

- | | | |
|------|---|--------------------|
| | 2 | 生活環境の改善について |
| 体育委員 | 1 | 運動具の使用保管について |
| | 2 | 適当なスポーツの研究普及について |
| | 3 | 運動場の使用と清掃について |
| 美化委員 | 1 | 教室、実習場、更衣室等の美化について |
| | 2 | 花壇計画とその運営について |
| 文化委員 | 1 | レコードの使用保管について |
| | 2 | レクリエーション実施について |
| | 3 | 所内放送について |
| | 4 | 新聞発行について |
| 安全委員 | 1 | 火災及び盗難の予防について |
| | 2 | 危害発生の防止について |
| | 3 | 通所の安全について |
| 図書委員 | 1 | 図書の購入、貸出し、保管について |
| | 2 | 図書利用等の調査について |

〔参考資料Ⅲ〕

茨城総合職業訓練所訓練生自治会会則

第1章 総則

第1条 本会は、茨城総合職業訓練所訓練生自治会と称す。

第2条 本会は、茨城総合職業訓練所の訓練生をもって組織する。

第3条 本会は、訓練生の健全な自主的な活動によって、心身の鍛錬と知識技能の研修につとめ、有能な職業人となるにふさわしい教養と人格の向上を図ることを旨とする。

附とする。

第4条 本会は、新卒の候補を選定するため次の機関を置く。

総 会

評議員会

ホームルーム会

第二章 役員

第5条 本会に、次の役員を置く。

会 長 1人

副 会 長 2人

書 記 1人

会 計 1人

会計監査 1人

第6条 会長は、会務を総理し、評議員会の議長となる。

第7条 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第8条 書記は、総会並びに評議員会の議事を記録し、かつ連絡回りの任にあたる。

第9条 会計は、会長の指揮を受け会計事務を処理する。

第10条 会計監査は、会計の監査にあたる。

第三章 総 会

第11条 総会は、本会の最高議決機関であつて、全会員をもつて構成する。

第12条 総会は、会長が必要と認めた場合又は、評議員会あるいは会員の3分の1以上の要請があつた時、会

長がこれを召集する。

第13条 総会の議長及び副議長は評議員会で決定する。

第四章 評議員会

第14条 評議員会は、本会の活動の中心機関であつてホームルームを代表する評議員本会役員、クラブ幹事長、顧問をもつて構成する。

第15条 評議員会は、必要に応じて会長がこれを召集する。

第16条 会長は、評議員の3分の2以上の要請があつた場合、臨時に評議員会を開催しなければならない。

第17条 評議員会において審議すべき事項は次のとおりとする。

- (1) 新課程の自治に関する事。
- (2) 予算に関する事。
- (3) 会則の修正に関する事。
- (4) 諸行事の策定実施に関する事。

第五章 役員の選挙及び任期

第18条 役員選挙を行うための必要に応じ選挙管理委員会を設ける。

第19条 選挙管理委員会は、選挙の実施に必要な事項を決定し公告する。

第20条 選挙管理委員会は、それぞれのホームルームから選出された代表者をもつて組織する。

第21条 代表者は、1ホームルーム会1人とする。

第22条 選挙管理委員会は、役員決定と同時に解散する。

第23条 選挙管理委員は、本会の役員となることはできない。

第24条 すべての役員の仕事は、6ヶ月とする。

第25条 役員に欠けた場合は直ちに補正し、後任者の任期は前任者の残存期間とする。

第26条 会員の三分の一以上が署名した役員罷免の要請書が、会長に提出された場合はリコール投票を行なわなければならない。

第6章 会 計

第27条 本会の運営に必要な経費は会費及びPTAからの補助金その他の収入金をもってこれにあてる。

2 会費は月額20円とし、会費がこれを負担する。

第28条 本会の会計年度は、7月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第7章 規 則

第29条 本会のすべての会合は、役員のうち三分以上の出席をもって成立する。

第30条 会議の議決賛否は、過半数をもって定める。

第31条 会長は、この会則の実施に際し必要な事項は評議員会の決議を経て別に定める。

付 則

この会則は、昭和 年 月 日から適用する。

(1) グループ・ワークの概念

グループ・ワークとは、どういう内容をもったものであるかというに、先づそのグループの意味を述べればそれは、人々の集りを意味し、且つ、その集りを構成している個人が或精神の基盤を共有し、リーダーを中心として、或共通の条件でむすばれたものであること、グループのリーダーは構成員の要請を手引きとして、グループ自体のカデプランを立て、自分の力で運営する。リーダーはまたお互いの同志の影響力をもつて、個々の人間的成長を助ける。それは、とりもなおさず、グループ全体の成長ともなる。

(2) グループ・ワークの意味

1) 生活指導の技術としての意義

人間の生活はもともと何らかのグループに属して生活し、それによつて、安定感を保っている。孤独のない孤児には、いつも不安がつきまとっているゆえんはこゝにある。

グループ活動に加わる事は一つの社会に属することであり、そのためには、その社会のルールを守る事を要請される。一つのグループがその活動を保つてゆくためには、その構成員に標準化した行動様式に従う事を要求し、各メンバーはその行動様式の自らを順応させてゆかねばならぬ。換言すればグループ活動という社会環境に処してゆくためには当然社会性

をもたねばならぬ。この社会性を育成するためには、グループ活動が大きな力となる。

2) 青少年指導としてのグループワークの意義

少年期にあつては、生活の中には家庭におかみ面祖がその大きな位置をしめていた。少年期に入るとそれが学校にうつり、教師が生活の主柱となる。ところが少年期より青年期に入ると、従来生活の主柱だった両親や教師に対し、批判的になり、それに代るものとして、友人の意義が増大する。これは、自我のめざめのあらわれと見なすことが出来る。しかしながら、この時期にあつてはどの自我は勿論完全なものではなく、独立性が確立されたわけでもなく、極めて不安な状態にあるわけである。一方青年前期にあつては、社会性が最も活発になるが、親教師を通しての教育よりも友人を通じての教育がより効果的で、ここにグループ活動推奨の意義がある。

3) 性格教育としてのグループ・ワークの意義

自主性の豊かな円満な性格をつくりあげるための全く教育の手段としてのグループワークのもつ意義は大きい。

人権形成は、勿論、学校、家庭でもなされるのだがそれぞれ不備な点をもっている。家庭についていえば子供が成長して、或ポイントに達するとその限界がくる。学校については皇太子教育にある事でもあり、またノ人の教師でもつてしては多くの生徒にゆきわたらぬ事が考えられる。

グループ・ワークの有利な点として

A 外的利点では——①小さな集団である事。②共通な精神的基盤に立つこと。③教育的環境の調整が容易である事等があげられ

B 内容的利点としては——①個性の確立に役立つ事なぜなら学校のクラスルーム等と比べて自己表現をするのに容易である事 ②適正な自己批判、反省の機会が与えられる。③自発性、自主性が助長される。④自我の成長を助長する。大きなグループの中における様な緊張を伴わないで自己主張がなされる。⑤社会性の育成に役立つ。即ち社会とのつながりにおける個性の確立及び協調性の培養に役立つ。

(3) グループ編成の方途

A リーダーに適格者を得る事

1) 年令——メンバーとの間に年令的に余りへだたりのない事

2) メンバーと比べて生活様式、生活条件、生活経験等に大きな差がない事

3) 時に共鳴をよぶ条件として、共通した経験をもち、メンバーよりも知識の豊かな人であること

4) グループワークに強い興味をもち、意義をみだしている人である事

5) リーダー、シッパ(統率力)があり、信頼され親しまれる人格の持ち主である事

B 小集団が自発的に参加してメンバーにより構成さ

れている事。

C. メンバーの年齢、教育程度、生活条件、興味、理想等が共通で統一性のある事。

D. しかしながら、或程度の異質性も必要である事。

E. 構成の員数は、リーダーの能力とメンバーの種類により異なるが、その決定について考慮すべき事は

1. リーダーがノムノムに対して正しい理解の上に立って換算するのに適当な人数である事。2. グループをひとまとめとして指導出来る事。3. 全員がお互いに理解しあい、共感しあつて活動出来ること。

人員があまり多くなると、内容が乏しくなりがちで成長性がない。例えば、同じ学校の生徒ばかりのAグループの活動は自主性もあり、意見も活発で語りはずむ。しかし活動が容易のため同じことを繰り返しやすく違った局面の発展がない。ところがBグループは学校も学年もちがった人の集まりであつたので、なかなか話もまとまりにくい。いつたん決まると夫々の経験を生かして活動するのでよりよい発展をとげた。或程度の異質性の必要とされるゆえん。

(4) グループ活動の進め方

A. 或少年がグループの一員になりたいという場合。

リーダーは先ずそのグループの活動の目的をはつきり理解させるために彼と面接し、次の事につぎ話す。

1. 新メンバーはグループ・ワークの目的と実際に所屬するグループの活動方針に共鳴すること。

2 グループの史積、構成、業績を説明して基本知識をもたせる。

3 入会の目的意識を明確にし、決意をかためさせる。

B. 愈々入会と決つたとは、グループに算入するについて次の事に注意を払う。

1 グループの受け入れ態勢を整える。

2 グループへ新会員を紹介する。この場合旧メンバーとの間に好意が助成される様な実をのみとり立て、不得意とか欠点については總体へふれぬこと。

3 早く他のメンバーと親しくなる様にしむけること。

例えば 双方の間に誤解があれば取り除く。

C. メンバー全員の統一について

1 常にグループに対する全員の認識を統一することにする。すべて全員の協議という事によつてグループの活動をすゝめ、メンバーに活動の意欲をもたせること。

2 お互いの交渉を密接にする様に工夫する。例えば、ゲーム、ハイキング、ピクニック等を行うとか共同の研究をもつたり一緒に劇をやる等。

3 お互い同志が気軽にまじわめる様な雰囲気をつくる。

4 グループが一応まとまり充実すれば、他のグループとの交流のチャンスをもち、メンバーの視野

の拡大をはかる。(独善的、排地的になるのをさけるためである)

(5) 計画のたて方

A プログラムの意義——グループ活動におけるプログラムは学校教育における学科課程に匹敵する。学科とちかう處、それが学校側で一方向的に決められるのに対してグループのプログラムは自主的に決められ運営され、その事に全メンバーの期待がかつていゝるわけである。

B 運営の仕方

グループの運営は全員の参加により全員の要求をみたす様になされ、かつそれぞれの成長に役立つ様になされねばならぬ。それには

- 1 全メンバーの要求と興味より出発すべきである
- 2 リーダーは常にメンバーの要求、興味を理解しなければならない。その方法として、イメンバーとの個人面談、ロ仲間同僚の会話、ハ類似のグループのプログラムをメンバーに批判させたり、アンケートをとり、調査すること等があげられる。

C 立案の仕方

プログラムの立案は全メンバーにより自主的に行わせるべきである。

先ずプログラムの草案をつくり、討議を行う。

グループをいくつかの単位にわけ、それぞれ代表を出して、その代表を通じてもらひ合議し、又そ

の会議の決定事項を各グループにもちかえり伝える。

◎ 立案についての注意として

- ① メンバーに共通の興味、利害等が明らかな場合は、グループ意識が高揚される様、他の活動をも合せ行う。
- ② 共通の興味利害等が不明瞭な場合はそれぞれを育てるに流れる一貫性を各自がみ出させる様な方法を工夫する。
- ③ 立案を終れば ①全メンバーの要求を満たせたか？ ②メンバーの成長に貢献するものであるか、③自主的運営がなされたか等について、とは評価を行う。
- ④ 要するに全員結束の基盤としてのプログラムとして、全員に共通する興味を育てると共に一貫性をもたせ、グループに個性をもたす様なものなえらば。

(6) 集団討議について

討論は明るくなくてやがな建設的か人いさの中で行い各自が同一集団に所属し、対等だという意識をもたせること。課題も全員の切実な関心と興味を引きおこすものを選びよう配慮すること。また結論にふさわしい設備や場所も考えに入れて決定し、討論をより効果的にする様に工夫すること。

討論の司会者としての注意は

- ① 討論に加わる人達に先ず話し合いの意義と目的を理解させ、問題点を明確にする。

- ② 気軽に話し合いの中にも各自が自己主張のあでなく他人の意見にも耳を傾ける様指導する。
- ③ 各自が討議に貢献する様な意欲をもたす様に努める。
- ④ 気の強い者でも自身の信念、意見を主張できる様にしむけること。
- ⑤ 仲間の発言がノ人の意見を正確に理解出来る様助言、指導する。
- ⑥ 各自の発言は建設的であること。
- ⑦ 司会者の意見が底になるべくさし控える。単にビントを打てるが、両者の程度にとどめる。
- ⑧ 言葉の語り、まっトピックについてくまなく語りつくす様たかを検討する。
- ⑨ 討議の進行中、友好的、雰囲気をかゝすのに努めること。
- ⑩ 討議を通じて各メンバーの性格を理解する様にし、互つ同様の発見に努めること。
- ⑪ 討議を終つて問題を把握すればその解決に努力する。
- ⑫ 議題に検討を加え、今後の討論の参考とする。

4 京 都 京都YMCA総主事 酒井英吾男

。現在の青少年にかけて居るものは権利は主張するが義務は遂行しないということである。

その英がグループは夫々の責任分担を遂行しない限り、

そのグループ活動はうまくゆかない、社会生活におい

てもその事はそのまゝではまるという事を学ぶ効果がある。

2. 青少年の肉心事を年少劣化者の生態として給料の使い方からみると年の超り高購入43.3%、映画23.6%、おけいこ14%という事が窺われるが、暗い中でひとり、映画に自己満足や夢を交がいて居るのではなく、高い要求にふりかえる事によつてよい影響を与える事になる。

高い要求にふりかえるには、グループへの参加によつて、その影響は個人に生活面に反映することになる。然し、グループ活動を通じてよい影響力だけでなく悪い影響力をもつ場合もある。

そこでグループ活動の効果をあげるのには

- ・よい指導者
 - ・個人
 - ・プログラム
 - ・グループ
- の四大要素を必要とする。

3. グループ活動のすゝめ方

- ・強制的参加ではなく任意参加でなくてはならない。
- ・まず小さいものから始める事、適当な数は12名〜15名位である。

又年少者は人数は少ない方がよい。

- ・グループに必要な要素として

平等性・・・異質のものがよると結合力が弱い。

異質性・・・ある程度に必要、即ち個性が必要で、

それによつて異質性が出来てくる。

・よい意思を受ける厚にグループは親しみやすく暖かいものでなくてはならない。

厳しく糾弾する事にはよくない。

・最大の効果をあげるために自由意思でグループ活動にすゝんで参加する熱意が必要である。

・定期的な集会を持つ事。

プログラムの作成について必要なものは次の案である。

・構成員がよく考え詰合つて作る事。

・思いつきでなく長期計画を立て基礎的な準備をする事。

・そのとで指導者がよいアドバイスをする事。

アメリカの例をとれば、グループ活動に参加したものは非行少年が1人も出ていない。

この事によつてもグループ活動が如何に青少年をまもつて居るかを理解出来ると思う。

5 兵 庫 御前 YNCA 主事 寺 井 鉄 雄

グループ活動の意義とその進め方

1. 人間の成長とグループ経験

1) 人間は生れてから種々のグループ経験を通して成長して行く。

ストラッソンに依る自然集団期は次のとつを指している。

1. 家族集団

4. 延長集団

2. 近隣集団

5. 趣味集団

3. 学校集団

6. 単性集団

7. 同性集団

8. 家族集団

6) 人間はグループ内に於ける役割期待の關係を経て社会性を自覚する。

2. 人の成長の方法としてのグループ活動

個々の人間のためのグループ経験の意識的利用を考へることは教育的である。意識的利用のために、それは「グループの人々と共に動く、順序ある計画を持つ仕事を考えねばならない。」此のために必要な道具として第一「グループ」第二に「個人」第三に「プログラム」第四に「指導者」を考へて置よう。

1) グループ

人々の留なる集合体を我々は、グループと呼ぶことになりかねない。幾つかの共通の性質を持つ単位の集合をグループと考へることも出来よう。我々は、今社会科学としてのグループ・ワークの立場からグループを考へる時、その成員間に相互作用があると言う事に依つて特徴付ける。相互作用(Interaction)とは人々との間に影響し合う働きを言う。従つて、個人にとつて、望ましいグループの状態とは、このグループのInteractionが誰の間にも充分に張りめぐらされる状態が望ましいわけである。相互作用の活発なグループのことを、志気(Morale)の高いグループと考へる事が出来るし影響力の大きなグループと考へる事が出来る。併然、相互作用は、人数の増加に伴つて幾何級数的に複雑になるので人数はその構成員の能力に

に応じて少数であることをお望ましい。6人〜15人、6人の少グループが考えられる筈である。

さて以上の概念でグループを認めたとしても猶、その上グループ・ワークを効果的に行うためには、その他にも幾つかのグループの特徴を考へることが出来るので列挙して見よう。

共通の興味を持つてゐる事、即ち或る程度の結合感なくてはならない。3番目には最少限度の組織を持つてゐる事、これは形式的でない場合でも成員間に一定の役割期待の關係に基く組織性が必要であるということである。4番目には社会的制御即ち他の成員との間の区別が必要であるし、5番目には諸集団やワーカーに受け入れられることが望ましい。等々である。

ロ) 個人々人 (成員)

個人がグループに参加するのはそれぞれに持つてゐる欲求を満されたいからに外ならない。

指導者としての我々は、彼らの欲求を如何に察見し、如何に満すかを考へねばならない。併然人間の欲求は必ずしも一定しないし、時間により、処により皆違ふことがある。好きな物、嫌いな物等は之に属するがこのように変化する欲求は、具體的欲求とも呼ばれ、その数は限りがない。また常に變化して行くものである。ワーカーはむしろ、この具體的欲求の背後にある基本的欲求とも言われる見えない、或る時には本人すら気づかない欲求に注意を払ふ必要があろう。

基本的欲求と考えられるものは心理学者によつて多少の差異はあるにしても、決してその数は多くない。その中でグループに入つてある個人の欲求の最大なものは、所属すること（50-10%）を欲することである。即ちグループと同一化するために役割を受け、また果たすことに基いて地位が与えられる。人に受け入れられる。認められる。愛せられたいという欲求は、社会的欲求とも呼ばれ、グループという道義の中で満たされるものである。特に個人個人に対する幼少時の理解と、たとえばそれが意識的内心は理性的であることを感えて無意識的な動機すけによつて行なわれる時にも、その行動を理解してやることは大切である。従つて最初個人は指導者との関係を通してグループに受け入れられるものであるが、次第にグループ自身によつてこの関係を満足させられるようになる。即ち交わり＝相互作用を通して求めるものを得て来るし、自己の感情を吐露するようになるのである。

ハ) プログラム

グループの経験をするということは、人と人との相互作用を経験することであり、交わりを経験することである。交わりの経験とは、具体的にプログラム過程を通して行なわれるものであり、プログラムの本当の意味は、行垂（Event）や活動（Activity）を指すことより、成員が何らかの活動を通して得られる経験の総和を指しているものでありプログラム過程は常に相互作用の過程と相俟つて初

果を生み出すものである。従つて良いプログラムとは認められされた行末や諸活動に対して評価されるものではなくして、個人に対して効果的な影響を与えたか否か、彼らの欲求に対して応え得たか否かによつて評価されるものでなくてはならない。言い換へれば、プログラムは個人の成員に対して意味を持つるものであつたとしても、成員の役割の取り方や協力の仕方によつてそれぞれに対して効果を持つことが出来るのである。かかる意味において、グループワークにおけるプログラムは、実は成員一人一人のためのものであると考えられるし、個人のものであると考えられるし、個人のためのプログラムを組むことを、プログラムを個別化 (Individualization) すると言ふことが出来る。

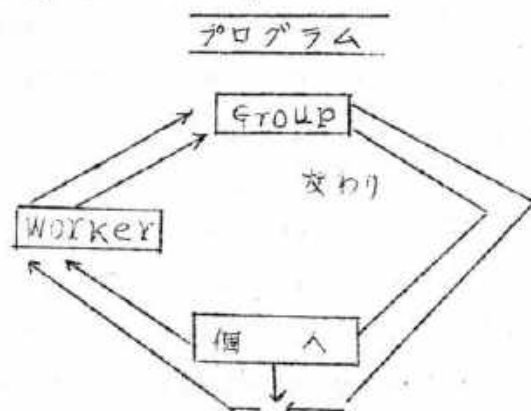
以上の論議によつて考えると、我々は今までに殊に個人にもプログラムにおける意識の媒体に中心を置いてプログラム自身を考えていたようである。

—が「何を」行なうかを考えるより「如何に」行なうかを考えることが出来れば好いである。

二) 指導者

グループの成否は指導者の責任であり、その意味において誰を握つてゐる人であるにも拘わらず、我々は指導者 (Leader) という言葉を用ひず、ワーカー (働き手) という言葉を用ひてゐる。また時には Helping Hand (助け手) Enabler (可能ならしめる人) と呼ぶこともある。その意味は、

グループ育半を或は個人を導くのではなく、彼らの持つてゐる能力を交え、それを伸ばすことを助け、彼等の計画を可能ならしめる仕事を任務とするからである。このことは指導者として自己の持つてゐるものを手えて行くことにより、より多くの準備と努力と忍耐が必要であるが、又それだけ個人の成長のためには大きな影響を与えることか出来る。グループや成長のために働くのではなくして、共に働くことであり、グループの扱い方や個人の扱い方より、ワーカーとしての自分自身を如何に扱うことに苦心する所以である。以上のグループ、個人、プログラム・ワーカーの関係を図示して見ると次のようにならう。先ずワーカーは個人の欲求（彼等の言葉、行動、態度を通して語られる欲求）を理解しそれをグループ経験（具体的に、グループ経験とは相互作用＝交わり関係の伴ったプログラム活動を意味する。）を通して満たしてやる。



個人は斯かるグループ経験を通して自己の人格を社会生活により適應出来るように、或はより高いものを築くことが出来るようにして行く。一つの欲求の充足は、次の欲求を生み、新たな欲求は再びワーカーに取つて見出され、プログラム経験を通して解決されて行く過程を辿るのである。

6 広島 広島大学助教授 石 堂 豊

勤労青少年の職業指導の問題は、6.3制という学制と関係があると思う。6.3の9年間の教育と言うものは義務教育であり、従つて一般教育、普通教育である。ところが新制中学から、進学するものは定時制に行くものも含めて52%進学しないものは48%ある。

この48%の殆んどが既につくのであるが、この頃は職場における家父長制の存在が段々なくなつてきて、所謂俸給生活者としての生活に入り職業訓練を受ける機会が全然なくなつた。

然し、職業訓練に対する考え方も大企業と中小企業とでは相当な違いがあり、大企業では新入社員に対して、年俸奉公の現代版とも考えられる養成工制度があり、この場合には各会社に応じた職業訓練を各事業場で行うので自社の状態で入社する事が歓迎され、中企企業の場合は入つたその時から何事も出来た方がよいと思はれる。

産業技術教育は何処かやっているか？と云う事になるが6.3制はあくまでも義務教育で一般教育だからこの中へ職業教育は持ち込むものではなく、6.3制からはみ出した

とこゝろで行われるべきだと思ふ。

青少年のグループ活動の一つとして青年学級を取り上げてみたいと思ふ。青年学級は終戦後昭和21～22年頃岩手、秋田、長野、静岡等山の中に行なつた。この地方には上級学校に行くことが出来ぬ者が多く、然し、いろいろ勉強しなければいけないと云う向学心にもえた人々が学習グループ（多角農業にまつたような産品に関する向題）を作つた。

○青年学級の推移

昭和24年	4,580学級	84万人	
・ 25年	5,628	・ 119	昭和28年青年学級振興法が出来た。いろいろな面で国庫補助が受けられるようになった。
・ 27年	13,628	・ 89	
・ 29年	14,407	・ 95	
・ 30年	17,606	・ 108	
・ 35年	16,800		

学級生の内訳 15～20才 40% 20才以上の者 60%

○学級生の職種別

被対象学級数	407学級(石室調)	3503学級(文部省調)
農 業	7.5%	7.7%
水 産 業	2.5%	2.3%
工 業	3.0%	2.9%
商 業	4.2%	4.4%
公務員	2.5%	2.5%
会社員	4.5%	4.5%
その他	3.8%	6.4%

グループに云うものは、地域 同春 或いは共通の向題

を持つてゐるという事が条件で出来るが、今までは主として同一地域を条件とするものの方が多く出来ていたが、最近では同業青年学級、業種別青年学級と云う形になつてきた。例として広島におけるクリーニング青年会のこと。これはクリーニングと何く人達を新しい技術を覚かようとの趣旨で発足して過去各店で行われた聴察指導の一端を受け持つと云う形になつてきた。

青年学級でも市町村が作ったものと、青年達の欲求にがくい違ふと云うた面もあつて、青年達は生の悩み、生の内題、自分達の学習といったものを希望している。聴察指導の一升どくりグループというのでも青年達に集つた青年達が初めのうちはつまらない話等していたが、そのうち話題がなくなり、そのうちもつといろいろな勉強しようではないかと云う事になり、いろいろな問題を取り上げる。その取り上げ方によつては更にグループを細く分け又一般問題等扱うときはその小さいグループが集つて話し合いをすると云う形で進展して来た。

グループ作りと云うものは決して上から指図して出来るものではないが、青少年の間にそういう気運が出来るよう、又出来かけた時に適切な助言指導が必要であらうと思う。

7 愛 媛 愛媛県婦人児童課主事

近 藤 みこ子

1. 青少年がグループから受ける影響

(1) 働く青少年の余暇活動

集団指導は余暇時間による。果して余暇の時間かどの位あるかについて非常に疑問があった。勿く青少年の集会で講演に行った時、その調査をしてみると、そんな時間はないというのが非常に多かった。もし余暇時間がないとするとグループ活動は成り立たない。また集団指導をはじめするには余暇時間かどの位あるかということから始めなければならぬ。余暇時間がある場合には、青少年は大半は映画を観に行くという現状である。ただ家で寝ころんでいるとか映画をみにゆくとかは余暇時間をうまく使っているとはいえない。余暇時間の使い方でその人の人間が分るといわれている。若し皆さんが二時間の余暇を与えられたら、どんな風に使いますか。この時間の使い方で人格が表われるし、又、翌日の生活が違った生々とした日となる。余暇時間はこの様に翌日の生活のエネルギーを養うものであるが、そのことにあり、又、一歩でも伸びる様に、青少年の余暇時間の使い方を指導するのが集団指導です。

この集団指導が重視されるのは、私達が人間として生まれた以上集団からはなれて生きることは出来ないし、又、人間が人間として伸びて行くのは集団全体の中で、力を合せてやってみようとする人になければならない。

(2) 相互作用ということ

私達が強い人間性を育てようとする時には、同じ類の中でねらなければならぬ。自然にすててお

いても同じ年令のものだけのグループが出来、そこで育つてゆく。この場合に進学する子供は自分と同じ位の年令の学級集団、遊び仲間集団の中に比較的にははいりやすいが、付く青少年は職場集団の中に入り青少年だけでなしに大人の中で生活する時間が長くなり、非常に無理が出てくる。同じ年令の者の中で切磋琢磨するのが一番良いのであるが、そういう点から考えて付く青少年者には、特に青少年のグループ活動の指導が必要であると思う。12才へ18才までには友人から受ける影響が一番強い。このとき仲間はずれにならない様にしようという意識が強い。グループ活動の影響を受けることについて一例をひいて説明すると、例えば、生活改善をしましょうというときパンフレットを100人の若者に配布したが、おずかに28人しか実行する者はなかつた。しかしその若を集めて調査すると、どの様な結果が表れるかと言ふと100人の中で3人の若がそれの影響された。3名である。又、同じテーマを少数の若を話し合つてみると、それによつて影響され、生活改善を実行したもの100人のうちで23人であつたという。而してグループワークとは、結局、人間同志がよく話し合い話し合いより影響をうけ合ふ事である。話し合つてゐるうちにお互いが契つてくる。こういうやり方が人間をよくするのに効果があるということ、先刻の調査からでも分ると思う。最近では世の中が生活が安定してくるに反比例して著しく青少年

年の犯罪が増加しているか、青少年が自然に集ろうという意欲を利用し、この中で相互の影響力を導くことによって正しい方向と導いてゆくことができると思われる。

2. グループについて

(1) 定義

集団は何かというと人間が二人以上いる場合に、それは集団である。その場合にお互いがお互い同志気持を通じ合っているということが条件となる。つまり気持の流水があるということが条件の一つである。大体グループの適当な人数としては10～15人以下の少人数である。何故なら私達は何かの集団の中におると気を使う。これは一つの社会性といわれるものであるが、この気を使うということがグループの中で練習させられることになる。この場合に少人数である程やりやすい。この少人数の中でお互いがお互い同志の意見を聞いたり出したりすることによって心の流水が生じ、その者はそれによって影響を受け自分の考えや人柄などが変わってくる。指導者の立場からみても、グループの会員数が多い程、指導も行えなかつ、非常にやり難い。十数人程度が適当なのであるが、まず、これら生まれた集団、即ちグループが更に順調に伸びるためにどんな条件が要求されるであろうか。

(2) 条件 (8つの集団)

○集まった会を和やかなものとする。その様な雰囲気

気にしなければならぬ。簡単な言葉で意思が通に
合うようなグループがいいグループと云はれる。
その会が面白いが、居くなるが どちらかでない
はならない。面白いという興味から自覚性、自
主性も生まれてくる。そこに青少年の心は伸び、
集団に所属している喜びを増すのである。義務や
強制でいやいや集るとき、青少年を伸ばすことは
出来ぬ。

その集会所が青少年にとって、誇りではなければなら
ぬ。誇りをもたすためにはバッチを作ったり、規
約等を明文化したりすることが挙げられる。又、
自分達が団結することによつて、その事業も発達
してゆくのだと云ふ。自覚心にまで、結びつけて
ゆくことは重要であると思う。この誇りを持たせ
ることによつて、集会所の時だけでなく、24時間の
青少年の生活を規制してゆくことが出来る。

○定期的、継続的に集まる。

これは必ず実行しなければならぬ。

グループの条件として以上のことが云えると思う。

○会費のことについてみると、最初グループにはい
った青少年達はすぐに気持ちとけあうということ
はない。グループの中に、二人三人にいうように
小人数でまた小さなグループを幾つか出来、その
中に一人だけボツンと残されている者、そんな現
象が生ずる。この場合に指導者は一人ぼっちの人
間をつくらない様、どこかの小グループに入れて

やる努力をしなければならぬが、こうして、たびたび集り活動しているうちに全体の大きなグループにと会員の心がたまって来る。しかし、いろいろ違った環境で違った性格の者がいろいろの欲求を持つて一つの集りに所属することになるのであるからまずそれぞれの要求をいかに認め、いかにいい方向に伸ばし、成長させるかは指導者の大きな課題であるとも云える。

いつて来た青少年はまずそのグループの中でどう云う風に会員として意識して来るか、それにはまず一緒の活動に行進を共にしなければならぬ。即ち活動に参加させることである。その方法としては、①言葉による参加と②言葉ではなしに行動による参加がある。指導者はまずその集いに出席する青少年をまず認めてやることが必要である。例えば時間を守る者、会場の整理をする者、又話しはしなくてもよく聞く者、そんな者には、その行爲を価値あるものだと認め、それを皆んなが認めることによつて、次第に一次元高い参加が出来るようにその者をもつてゆくのである。参加して認められることによつて会員意識が深まり、グループから受ける影響が強くなって来る。即ちその会に所属することの目的を次々に認識して来ることになるのである。且つ、目的に近づくまでにはいろいろな段階があるけれども、それこそが近づくということの一つの成功と云える。

のプログラム。次に集会で何をやるかであるが、行事を中心と考えては駄目である。人間を中心と考えなければならぬ。例えば集まって講演をやろうとかレクリエーションをやろうとか言うことはこれによつて、参加者がどれだけのが、感化されるかという点が大抵である。盛大な行事を量産しくやつても参加している人間を育てるということを望むしなければその効果は稀薄なと思う。

プログラムは人々との関係を深め相互作用を強めるようなものがよい。この要からいへば、とどこほりなくスピーディなプログラムがはこぶということよりもむしろゴタゴタした方が結びつきは深くなる事が多い。失敗も貴重でかえつて皆の意識をつよめることが出来る。だから行事そのものが成功しなくても、それによつてどれだけの気持の結びつきが強くなつたか、グループの団結が固つたか、一人一人が成長したかということが問題となると思う。

次に集会そのものを更に円滑にするために行くためには、指導者が年少者が興味をもっていることに焦点を合せて集会を運んで行く。出発点はどんなに低くても、それから上に向つて伸びられる可能性をもつかぎりいいと思う。その際には指導者は何を欲しているかをつかまなければならぬ。

これは年少者の気持に側して、誘導式にやる必要がある。このやり方で変化を与えたら計画を立てて行くといふ。プログラムの中で、キヤンプが一番

まいと云はれている。共に寝、食、付き、遊び、語り合うという人間同志が親しくなるあらゆる機会を備えているからである。

○指導者 指導者とは追随者をもっていることである。この時 追随者との間に自由なやり取りはならない。そして指導者には リーダーシップといういわゆる行勢、考えを渡さす力を持っている必要はない。

人間が二人以上いる場合に必ずそこにリーダーが出る。指導者はいろいろ集団の中にいる。それでは青少年の中ではどう云う人が指導者になりやすいか、それは青少年と気持のとても共通の基盤をもっている人である。

即ち、指導者と指導される者との間の気持の流れ、相互作用があるときに指導と云えるのである。ここに専制との相違がある。

この力のありリーダーがグループワーカーとして、指導者、助言者、あとおしの指導をすることが大切でグループワーカーは、自分を表に出さず、かげの力を持つべきだ。

